

丹波市
地域福祉に関するアンケート
調査結果報告書

令和2年2月

丹 波 市

— 目 次 —

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査設計	1
3.	回収状況	1
4.	報告書の見方	1
II	アンケート調査結果	2
1.	回答者の基本属性について	2
2.	ご近所づきあいについて	10
3.	地域活動などについて	17
4.	ボランティア活動について	25
5.	福祉に関する考えについて	31
6.	人生 100 年時代に向けた福祉のあり方について	37
7.	地域福祉に関する制度等について	46
8.	地震や風水害等などの災害対策について	50
9.	人権に関することについて	54
10.	その他のことについて	56

I 調査概要

1. 調査目的

丹波市では、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」を進めるため、将来に向けた方向性や方針等を示す「丹波市地域福祉計画」の見直しを行っています。

誰もがいつかは高齢者になり、今まで普通に出来ていたことが少しずつ出来なくなり、「支える側」から「支えられる側」に変わっていくことから、今、困っていることや将来（5年から20年後を想像）、自分自身や家族が困ることは何か、また地域で支えあう活動の意識や実態等を把握し、今後の地域福祉を進めるために必要な基本資料を得ることを目的に実施した。

2. 調査設計

・調査地域	丹波市内全域
・調査対象	丹波市内に住んでいる18歳以上の市民の中から無作為に3,000人を対象
・調査方法	郵送配布、郵送回収
・調査期間	令和元年11月29日（金）から令和元年12月15日（日）

3. 回収状況

調査対象者	回収数	無効数	有効回答数	有効回答率
3,000人	1,254件	1件	1,253件	41.8%

4. 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

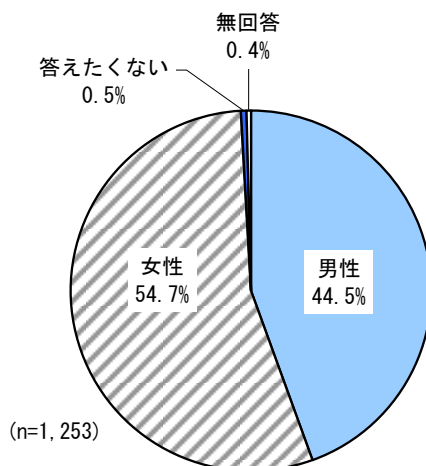
Ⅱ アンケート調査結果

1. 回答者の基本属性について

(1) 回答者の性別

問1 あなたが認識されている性別は。(○は1つ)

【図1-1 回答者の性別】

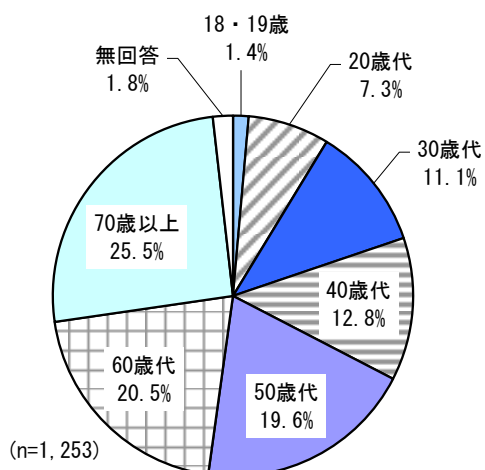


回答者の性別では、「男性」が44.5%、「女性」が54.7%となっている。(図1-1)

(2) 回答者の年齢

問2 あなたの年齢は。(令和元年11月1日現在)

【図1-2 回答者の年齢】

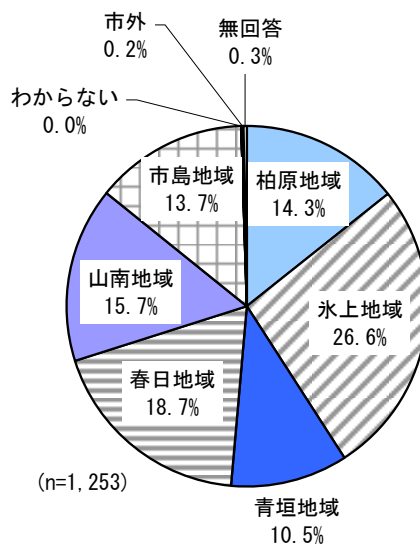


回答者の年齢では、「70歳以上」が25.5%で最も多く、次いで「60歳代」が20.5%、「50歳代」が19.6%となっている。(図1-2)

(3) 居住地域

問3 あなたはどちらの地域にお住まいですか。(〇は1つ)

【図1-3 居住地域】

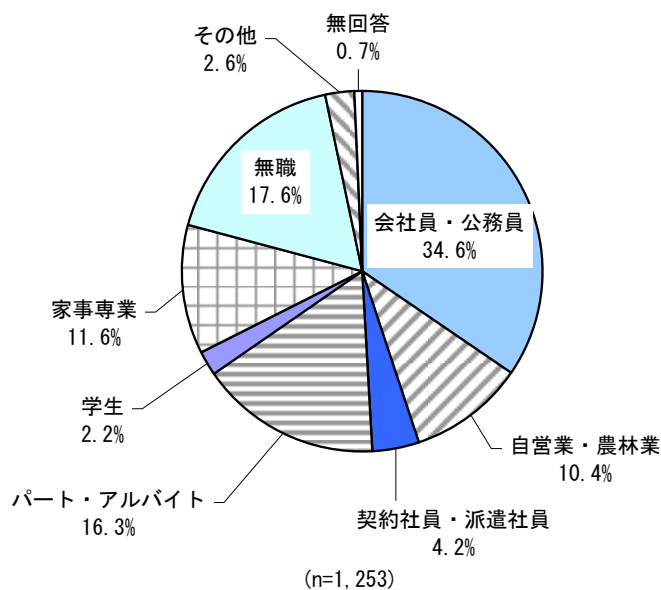


居住地域では、「氷上地域」が26.6%で最も多く、次いで「春日地域」が18.7%、「山南地域」が15.7%となっている。(図1-3)

(4) 回答者の職業

問4 あなたの職業等を教えてください。(〇は1つ)

【図1-4 回答者の職業】



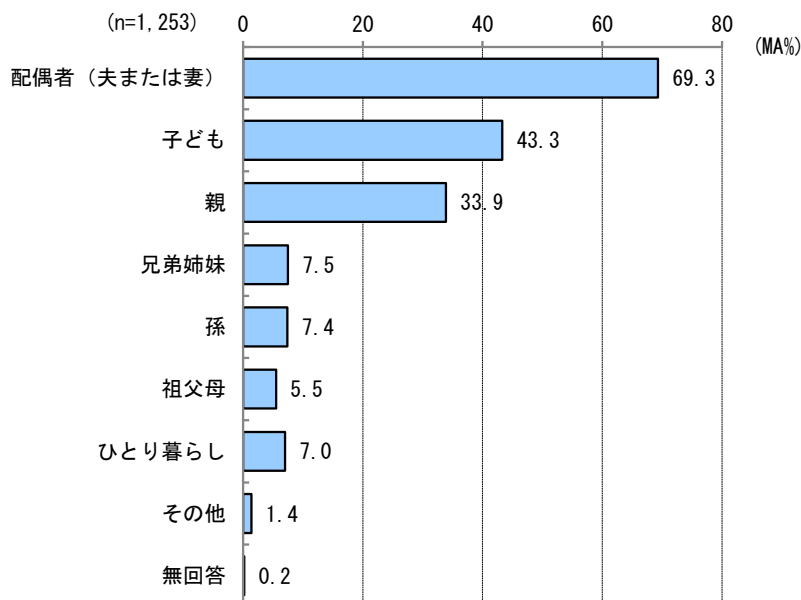
回答者の職業では、「会社員・公務員」が34.6%で最も多く、次いで「無職」が17.6%、「パート・アルバイト」が16.3%となっている。(図1-4)

(5) 同居者

① 同居者の続柄

問5 あなたと同居されている方はどなたですか。(〇はいくつでも)

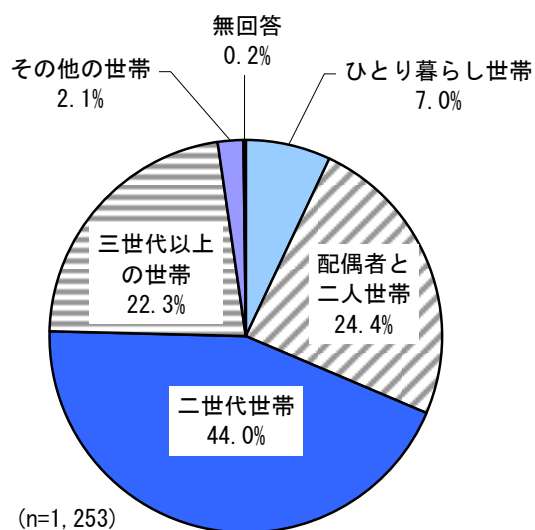
【図1-5① 同居者の続柄】



同居者の続柄では、「配偶者 (夫または妻)」が69.3%で最も多く、次いで「子ども」が43.3%、「親」が33.9%となっている。(図1-5①)

② 世帯構成

【図1-5② 世帯構成】

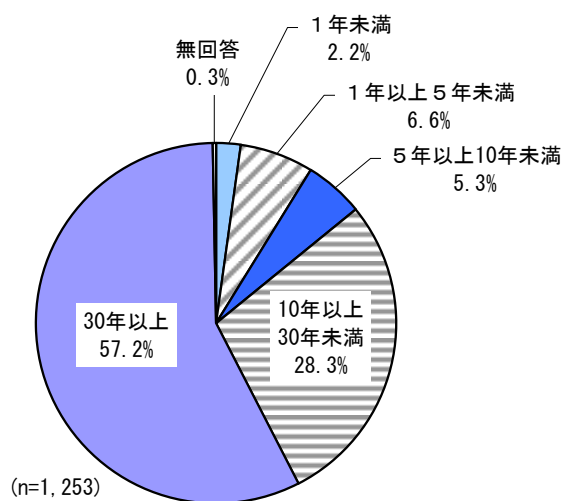


同居者の続柄の回答の組み合わせから世帯構成を集計したところ、「二世帯世帯」が44.0%で最も多く、次いで「配偶者と二人世帯」が24.4%、「三世帯以上の世帯」が22.3%となっており、「ひとり暮らし世帯」は7.0%となっている。(図1-5②)

(6) 通算居住年数

問6 今の地域に住んでどのくらいになりますか。(○は1つ)

【図1-6 通算居住年数】

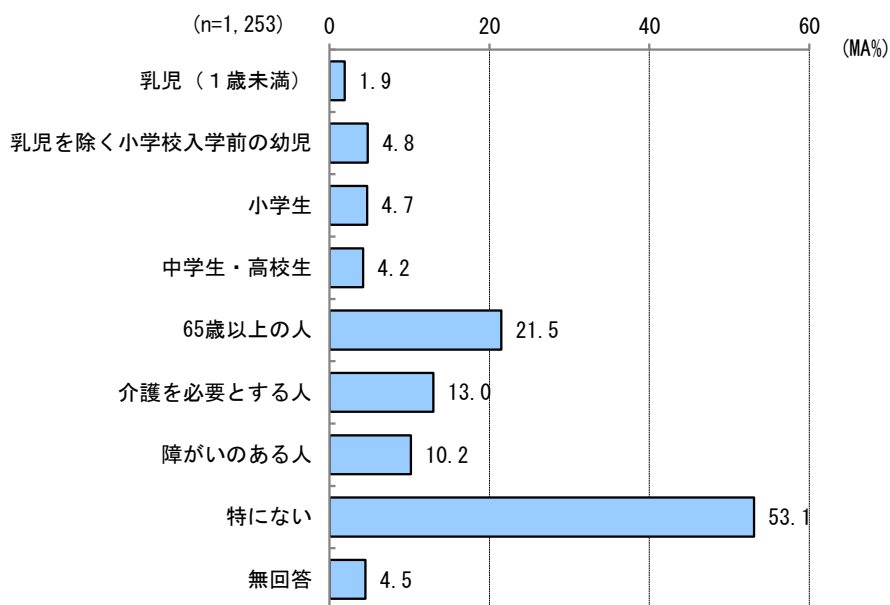


通算居住年数では、「30年以上」が57.2%で最も多く、次いで「10年以上30年未満」が28.3%となっている。一方、10年未満の居住者の割合は14.1%となっている。(図1-6)

(7) 支援が必要な同居者の有無

問7 同居されているご家族（あなたを含む）の中に、何らかの支援が必要な方や心配な方がいますか。(○はいくつでも)

【図1-7 支援が必要な同居者の有無】

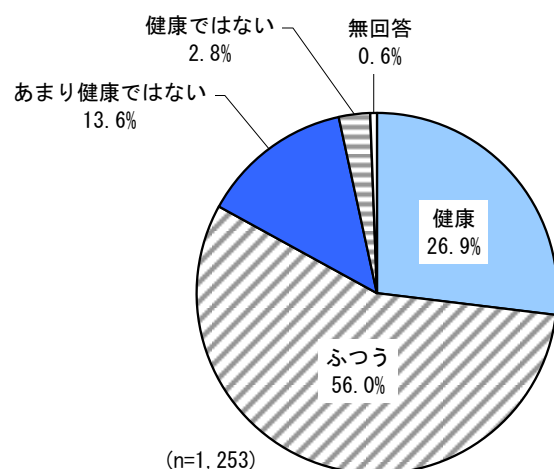


支援が必要な同居者がいるかについて、「特にない」が53.1%を占めている。一方、支援の必要な人や心配な人がいる同居者は、「65歳以上の人」が21.5%で最も多く、次いで「介護を必要とする人」が13.0%、「障がいのある人」が10.2%となっている。(図1-7)

(8) 主観的健康観

問8 あなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

【図1-8 主観的健康観】

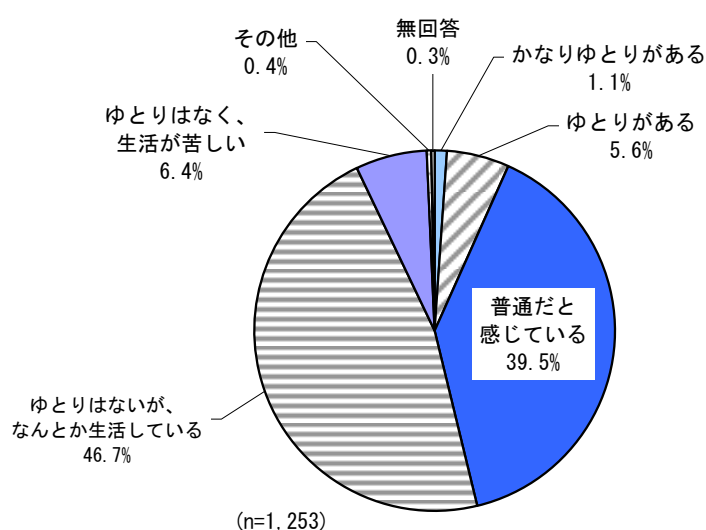


自身の健康状態について、「ふつう」が56.0%で最も多く、次いで「健康」が26.9%となっている。一方、「あまり健康ではない」や「健康ではない」と回答した人は16.4%となっている。(図1-8)

(9) 主観的経済状況

問9 ご自身の生活の経済的な状況について、どのように感じていますか。(○は1つ)

【図1-9 主観的経済状況】

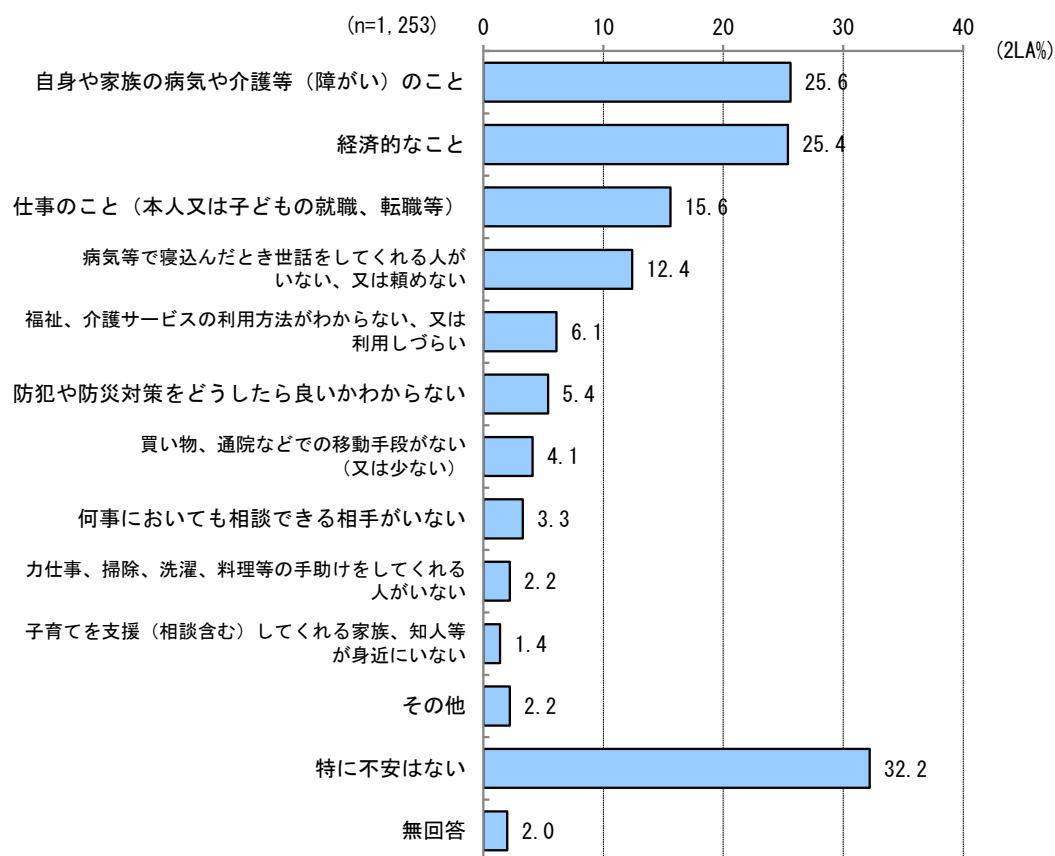


自身の生活の経済的な状況について、「ゆとりはないが、なんとか生活している」が46.7%で最も多く、次いで「普通だと感じている」が39.5%、「ゆとりはなく、生活が苦しい」が6.4%となっている。(図1-9)

(10) 日常生活で困っていることや不安なこと

問10 日常生活で困っていることや不安なことはありますか。(○は2つまで)

【図1-10 日常生活で困っていることや不安なこと】

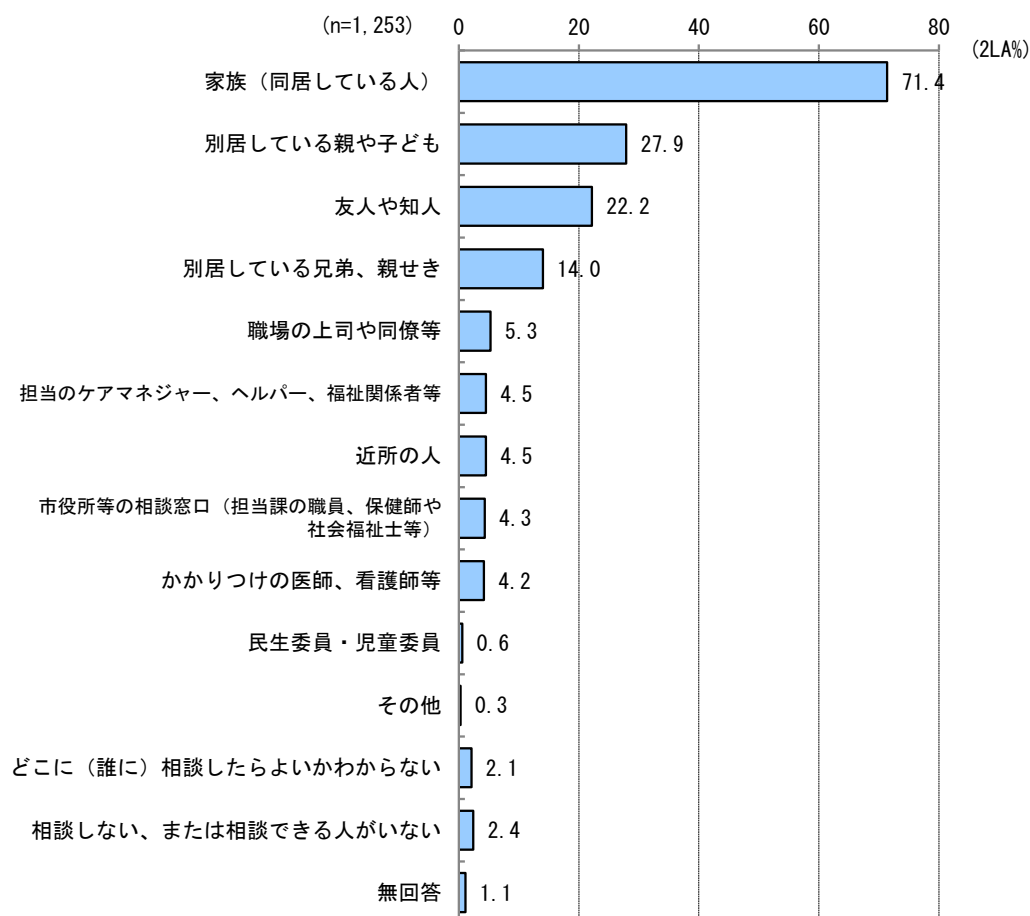


日常生活で困っていることや不安なことがあるかについて、「特に不安はない」が32.2%を占めている。一方、困っていることや不安なことがある人では、「自身や家族の病気や介護等（障がい）のこと」が25.6%で最も多く、僅差で「経済的なこと」が25.4%となっている。（図1-10）

(11) 日常生活で困ったことや不安なことを相談する相手

問11 日常生活の困っていること、不安なことを相談するなら、その相手はどなたですか。
(○は2つまで)

【図1-11 日常生活で困っていることや不安なことを相談する相手】

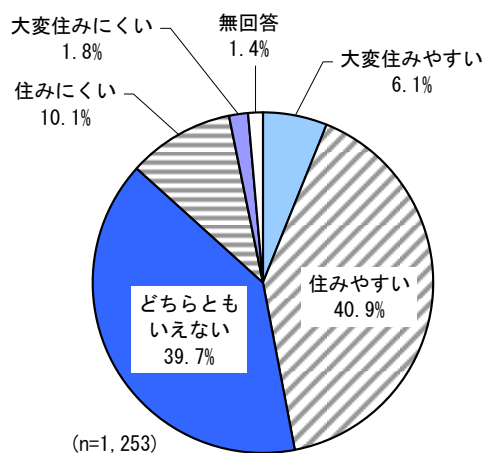


日常生活で困っていることや不安なことを相談する相手については、「家族（同居している人）」が71.4%で最も多く、次いで「別居している親や子ども」が27.9%、「友人や知人」が22.2%となっている。（図1-11）

(12) 居住地域の住みやすさ

問12 現在お住まいの地域は住みやすいと思いますか。(○は1つ)

【図1-12 居住地域の住みやすさ】



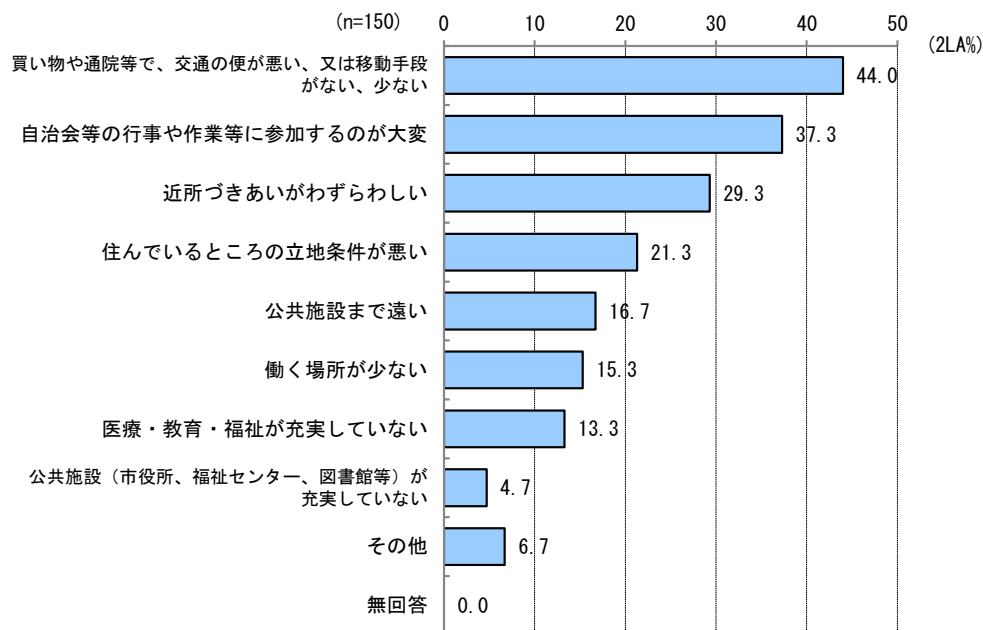
現在の住まいの地域の住みやすさについて、「住みやすい」が40.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が39.7%となっている。一方、「住みにくい」や「大変住みにくい」と回答した人は11.9%となっている。(図1-12)

(13) 住みにくい理由

【注記】問12で「4. 住みにくい」または「5. 大変住みにくい」と回答した方にお聞きします。

問12-1 住みにくい理由は何ですか。(○は2つまで)

【図1-13 住みにくい理由】



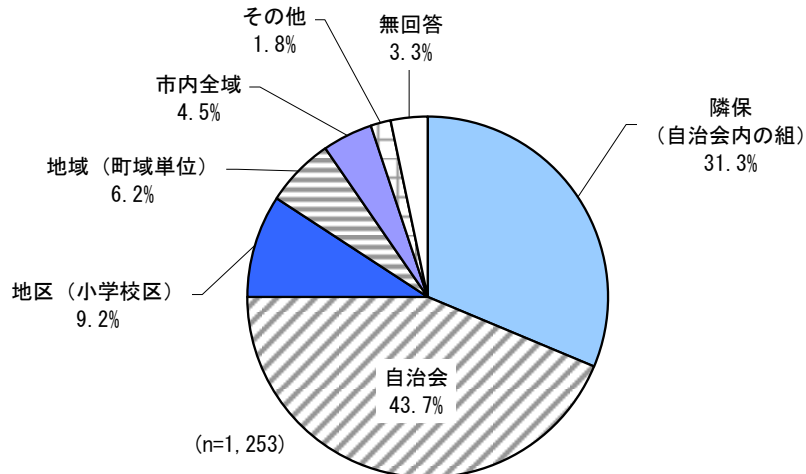
居住地域が住みにくいと回答した人に、その理由をたずねると、「買い物や通院等で、交通の便が悪い、又は移動手段がない、少ない」が44.0%で最も多く、次いで「自治会等の行事や作業等に参加するのが大変」が37.3%、「近所づきあいがわずらわしい」が29.3%となっている。(図1-13)

2. ご近所づきあいについて

(1) 住民が助けあえる地域の範囲

問13 住民が助けあいの活動を行う「地域」とはどの範囲が適当だと思われますか。(〇は1つ)

【図2-1 住民が助けあえる地域の範囲】

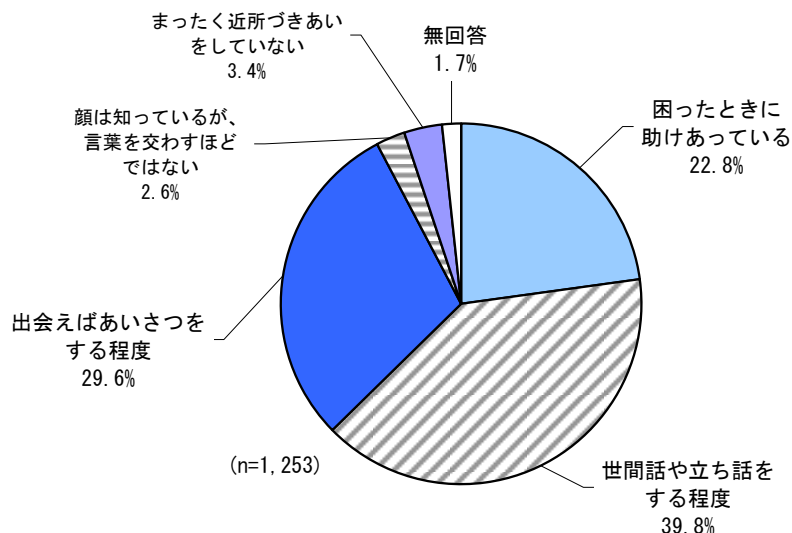


住民が助け合える地域の範囲については、「自治会」が43.7%で最も多く、次いで「隣保（自治会内の組）」が31.3%、「地区（小学校区）」が9.2%となっている。（図2-1）

(2) 近所づきあいの程度

問14 あなたは、現在、どの程度近所づきあいをしていますか。〇は1つ

【図2-2 近所づきあいの程度】



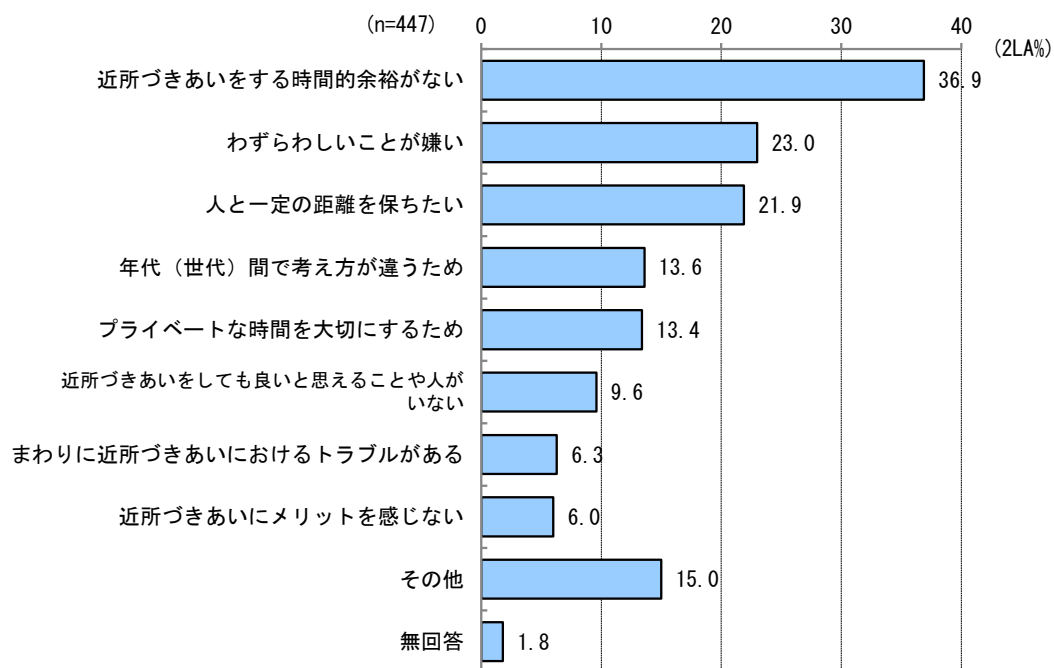
近所づきあいの程度については、「世間話や立ち話をする程度」が39.8%で最も多く、次いで「出会えばあいさつをする程度」が29.6%、「困ったときに助け合っている」が22.8%となっている。また、「出会えばあいさつをする程度」や「顔は知っているが、言葉を交わすほどではない」、「まったく近所づきあいをしていない」と回答した人は35.6%となっており、3人に1人の割合となっている。（図2-2）

(3) 近所づきあいをしていない理由

【注記】問14で「3. 出会えばあいさつをする程度」、「4. 顔は知っているが、言葉を交わすほどではない」、「5. まったく近所づきあいをしていない」と回答した方にお聞きします。

問14-1 近所づきあいをしていない理由は何ですか。(○は2つまで)

【図2-3 近所づきあいをしていない理由】

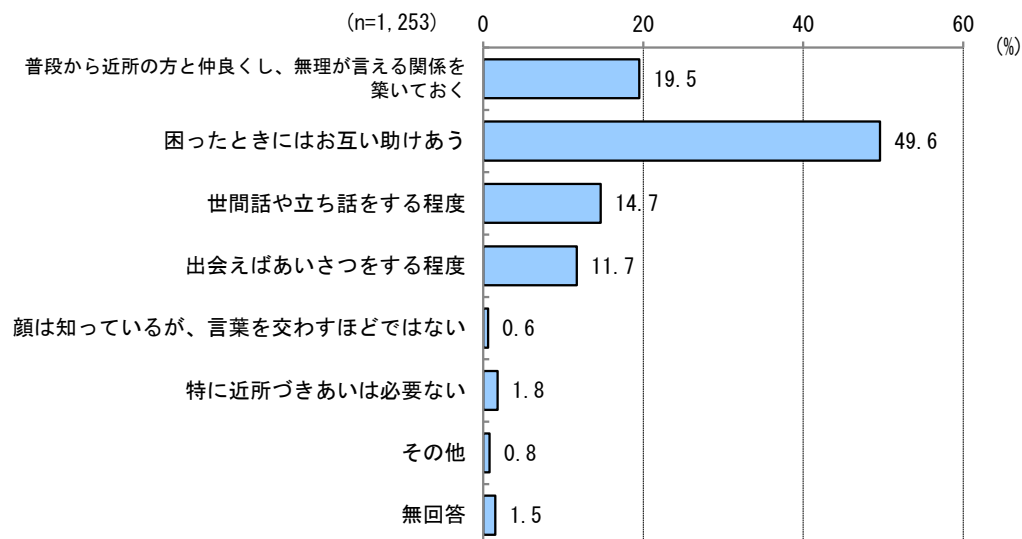


近所づきあいをしていないと回答した人に、その理由をたずねると、「近所づきあいをする時間的余裕がない」が36.9%で最も多く、次いで「わずらわしいことが嫌い」が23.0%、「人と一定の距離を保ちたい」が21.9%となっている。(図2-3)

(4) 理想的な近所づきあいの程度

問15 あなたは、今後、どの程度の近所づきあいが理想だと思われますか。○は1つ)

【図2-4 理想的な近所づきあいの程度】

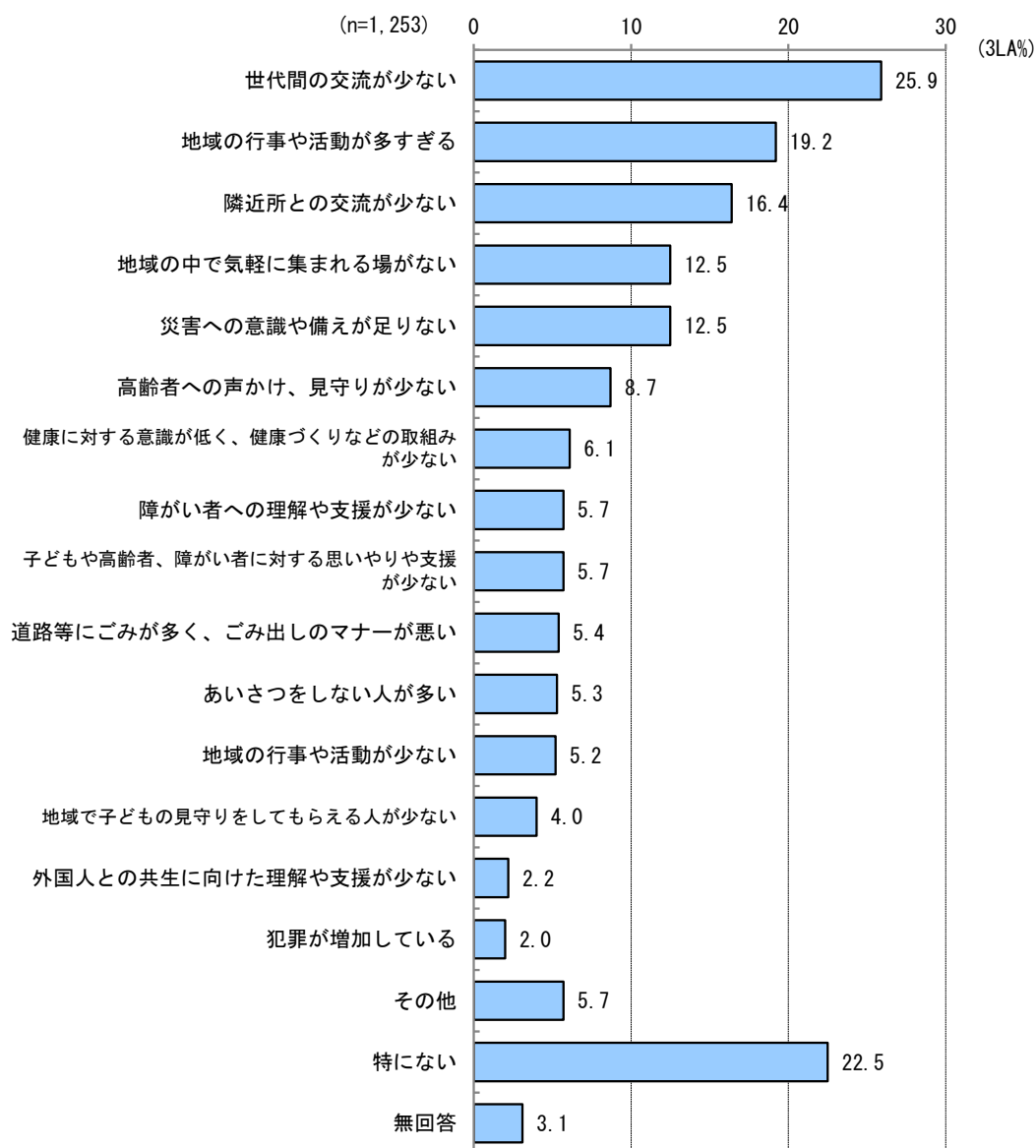


理想的な近所づきあいの程度については、「困ったときにはお互い助けあう」が49.6%で最も多く、次いで「普段から近所の方と仲良くし、無理が言える関係を築いておく」が19.5%、「世間話や立ち話をする程度」が14.7%となっている。(図2-4)

（５）居住地域の状況や課題

問16 あなたの住む地域（自治会や地区）の状況や課題で特に感じるものは次のうちどれだと思いますか。（○は3つまで）

【図2-5 居住地域の状況や課題】

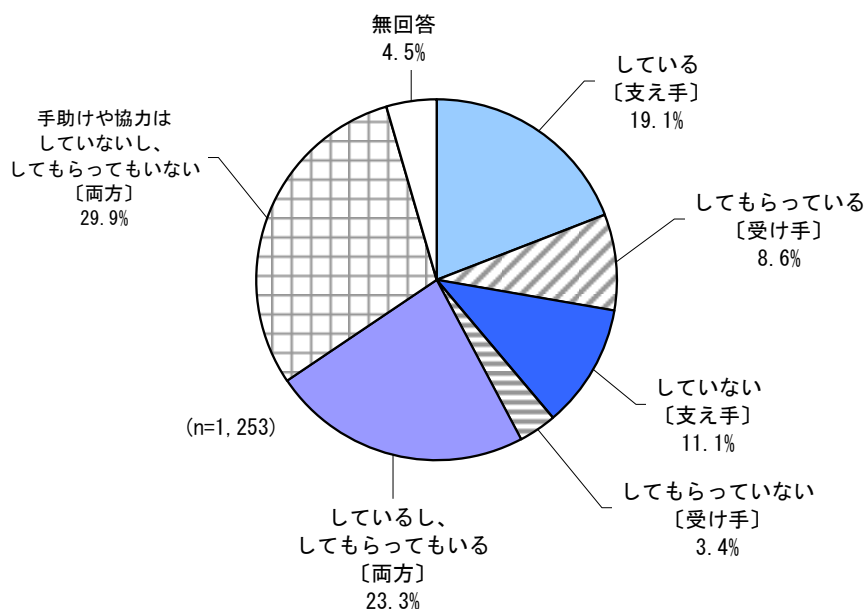


居住地域の状況や課題については、「世代間の交流が少ない」が25.9%で最も多く、次いで「地域の行事や活動が多すぎる」が19.2%、「隣近所との交流が少ない」が16.4%となっている。一方、「特にない」は22.5%となっている。（図2-5）

（６）隣近所の人との助けあいの有無

問17 あなたは、日頃、隣近所の人と生活上のちょっとした手助けや協力などの助けあいをしていますか（又はしてもらっていますか）。（○は1つ）

【図2-6 隣近所の人との助けあいの有無】

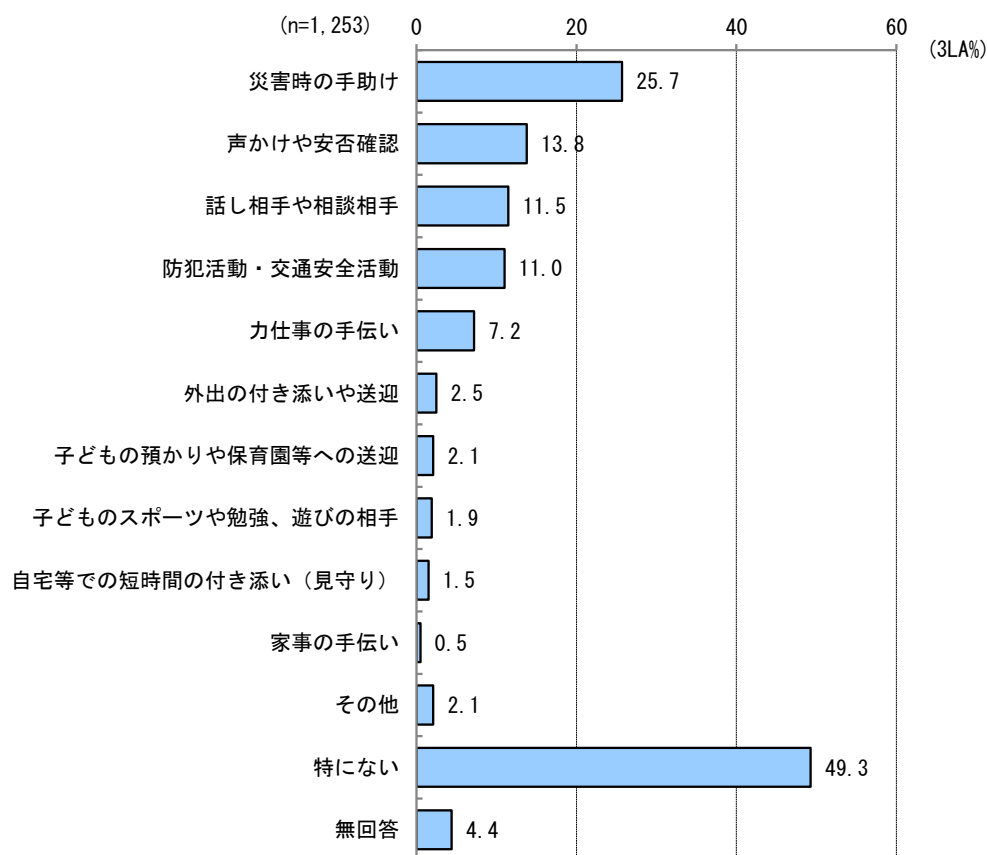


日頃、隣近所の人と生活上で手助けや協力などの助けあいをしているかについて、「手助けや協力はしていないし、してもらってもない〔両方〕」が29.9%で最も多く、次いで「しているし、してもらっている〔両方〕」が23.3%となっている。また、「している〔支え手〕」や「してもらっている〔受け手〕」、「しているし、してもらっている〔両方〕」と回答した人は51.0%を占めており、一方の「していない〔支え手〕」や「してもらっていない〔受け手〕」、「手助けや協力はしていないし、してもらってもない〔両方〕」と回答した人は44.4%となっている。（図2-6）

（７）隣近所の人に求める手助けや協力

問18 あなたは、日常生活の中で、隣近所の人に手助けや協力をしてほしいと思ったことはどんなことですか。（○は3つまで）

【図2-7 隣近所の人に求める手助けや協力】

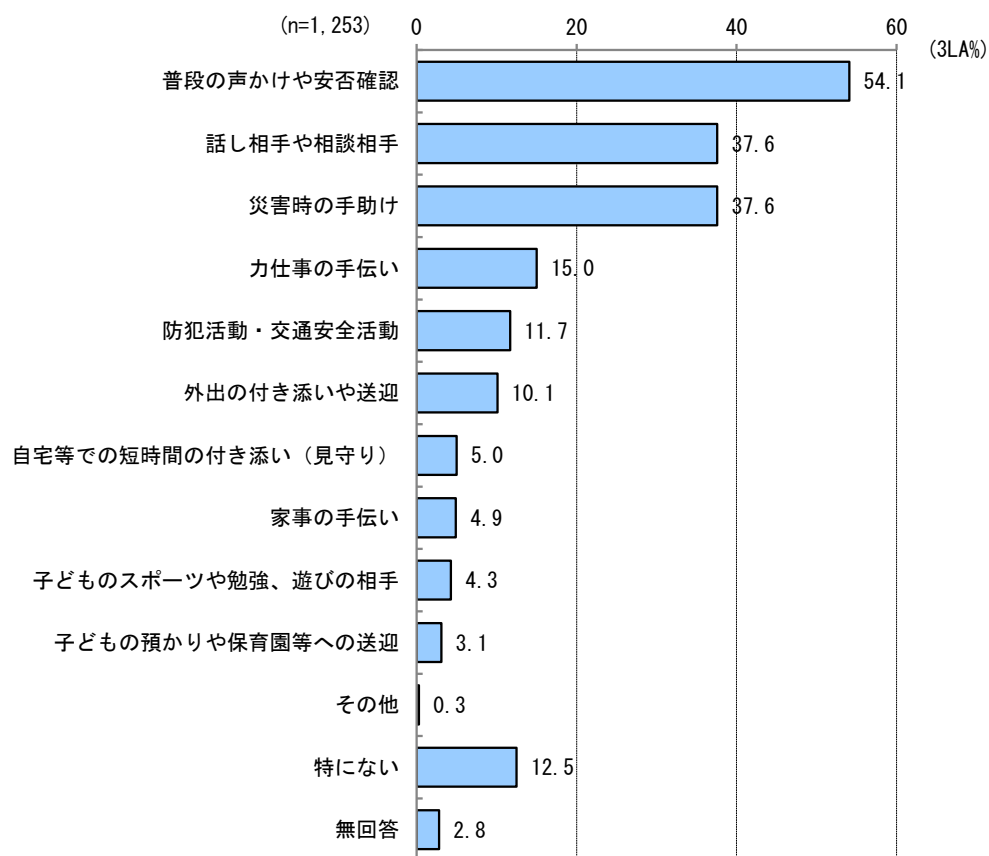


日常生活の中で、隣近所の人に手助けや協力をしてほしいと思ったことについて、「特にない」が49.3%を占めている。一方、手助けや協力を求めている人では「災害時の手助け」が25.7%で最も多く、次いで「声かけや安否確認」が13.8%、「話し相手や相談相手」が11.5%となっている。（図2-7）

（８）隣近所の人にはできる手助けや協力

問19 あなた自身が、隣近所の人に対して手助けや協力をするなら、どんなことができますか。
できそうなことを教えてください。（○は3つまで）

【図2-8 隣近所の人にはできる手助けや協力】



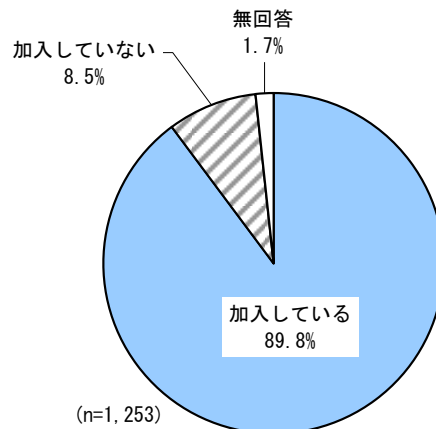
隣近所の人にはできる手助けや協力については「普段の声かけや安否確認」が54.1%で最も多く、次いで「話し相手や相談相手」と「災害時の手助け」がともに37.6%となっている。一方の「特にない」は12.5%となっている。（図2-8）

3. 地域活動などについて

(1) 自治会の加入有無

問20 現在、あなたの世帯は自治会に加入していますか。(○は1つ)

【図3-1 自治会の加入有無】



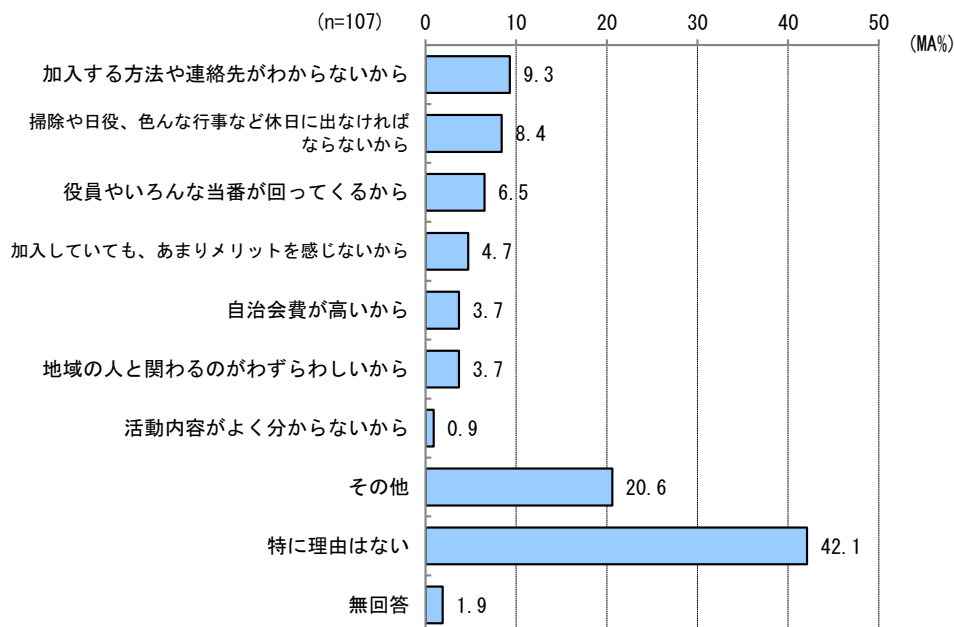
自治会の加入有無について、「加入している」が89.8%を占めており、「加入していない」は8.5%となっている。(図3-1)

(2) 自治会に加入していない理由

【注記】問20で「2. 加入していない」と回答した方にお聞きします。

問20-1 自治会に加入していない最も大きな理由は何ですか。(○は1つ)

【図3-2 自治会に加入していない理由】



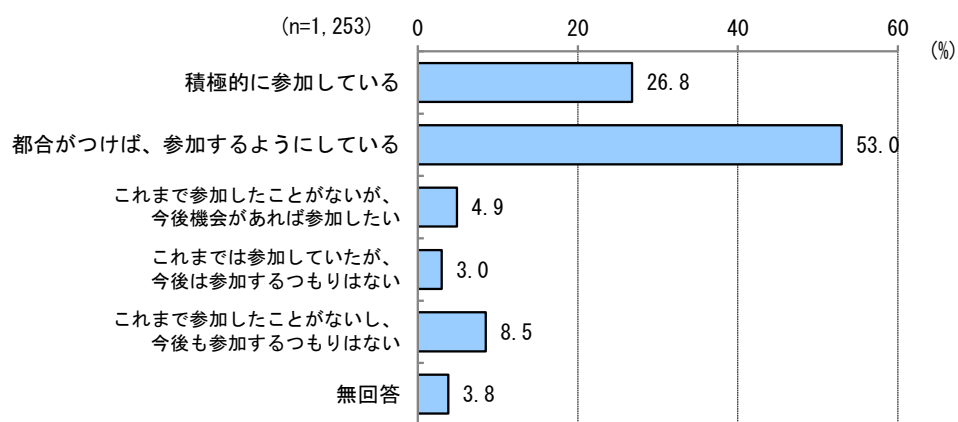
※複数回答をすべて有効。

自治会に加入していないと回答した人に、その理由をたずねると、「特に理由はない」が42.1%を占めている。「その他」の内容では、“集合住宅に住んでいるため”などの理由が挙げられている。(図3-2)

(3) 地域活動の参加状況

問21 お住まいの地域（自治会）で、行事や地域活動に参加していますか。（○は1つ）

【図3-3 地域活動の参加状況】



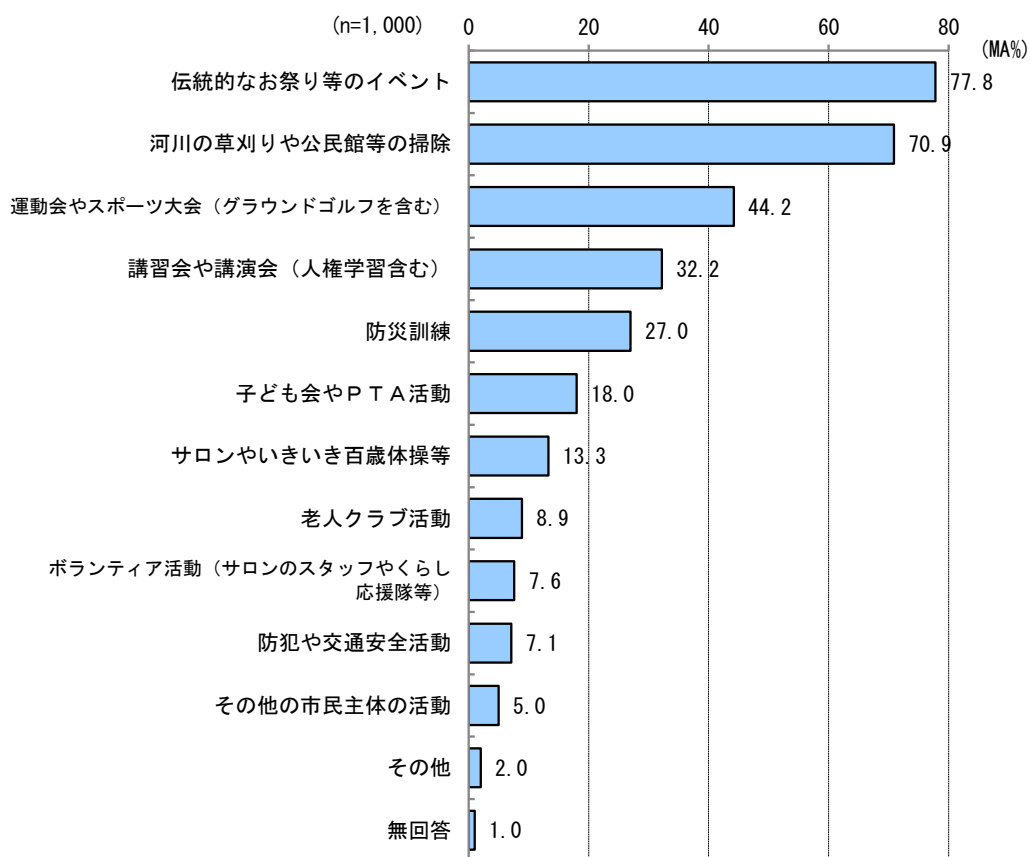
地域活動の参加状況については、「都合がつけば、参加するようにしている」が53.0%で最も多く、次いで「積極的に参加している」が26.8%となっており、両者を合わせると79.8%を占めている。（図3-3）

(4) 参加している地域活動

【注記】問21で「1. 積極的に参加している」、「2. 都合がつけば、参加するようにしている」と回答した方にお聞きします。

問21-1 どんな行事や地域活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

【図3-4 参加している地域活動】



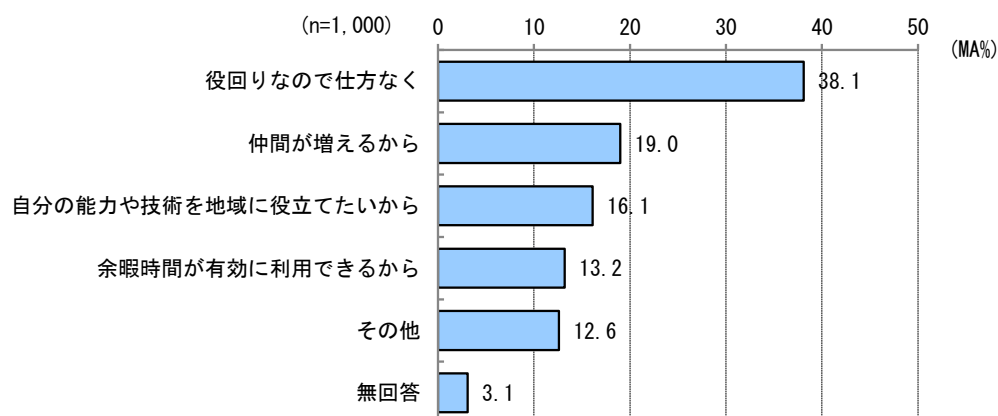
現在、地域活動に参加していると回答した人に、活動内容をたずねると、「伝統的なお祭り等のイベント」が77.8%で最も多く、次いで「河川の草刈りや公民館等の掃除」が70.9%、「運動会やスポーツ大会 (グラウンドゴルフを含む)」が44.2%となっている。(図3-4)

（５）地域活動の参加目的

【注記】問21で「１．積極的に参加している」、「２．都合がつけば、参加するようにしている」と回答した方にお聞きします。

問21-2 どのような目的で参加していますか。（○は１つ）

【図3-5 地域活動の参加目的】



※複数回答をすべて有効。

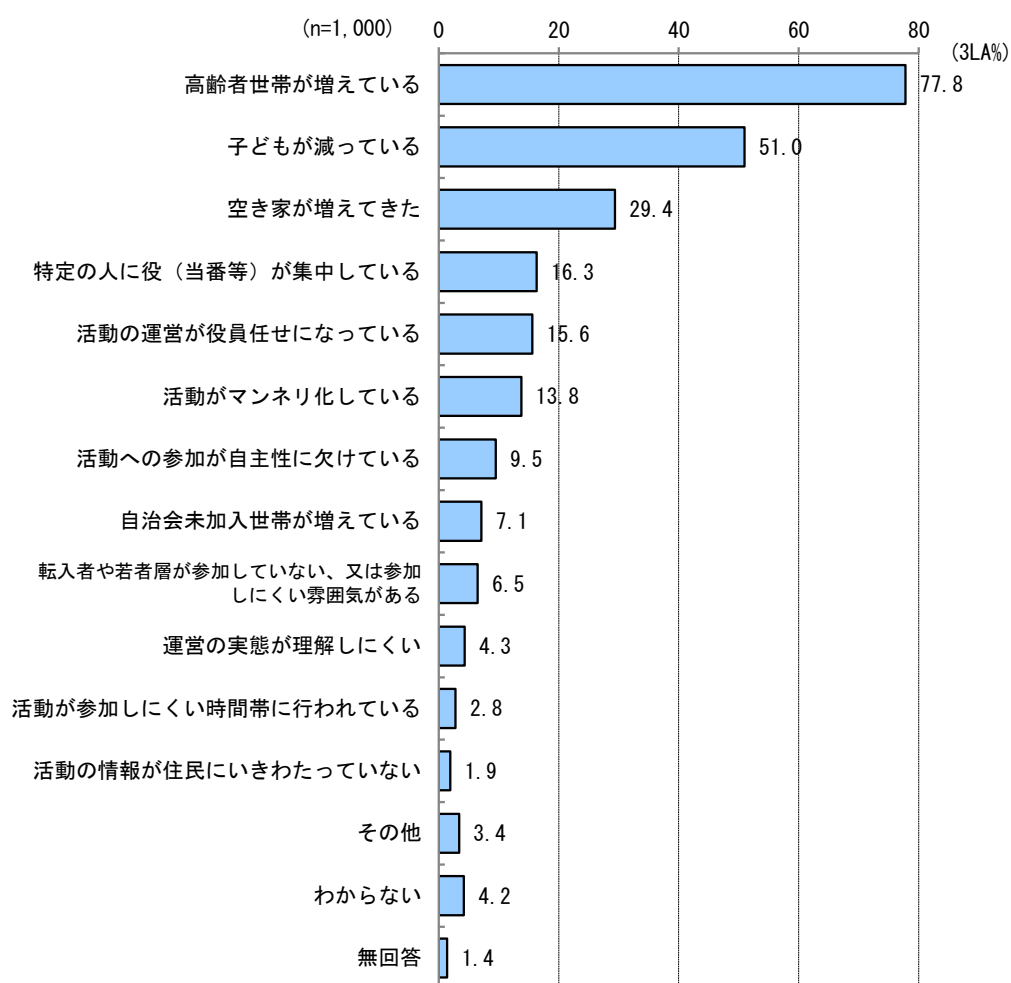
現在、地域活動に参加していると回答した人に、その目的をたずねると、「役回りなので仕方なく」が38.1%で最も多く、次いで「仲間が増えるから」が19.0%、「自分の能力や技術を地域に役立てたいから」が16.1%となっている。（図3-5）

（６）現在の自治会や地域活動に抱く課題

【注記】問21で「１．積極的に参加している」、「２．都合がつけば、参加するようにしている」と回答した方にお聞きします。

問21-3 現在の自治会や地域の活動に、どのような課題があると思いますか。特に感じられるものを教えてください。（〇は3つまで）

【図3-6 現在の自治会や地域活動に抱く課題】



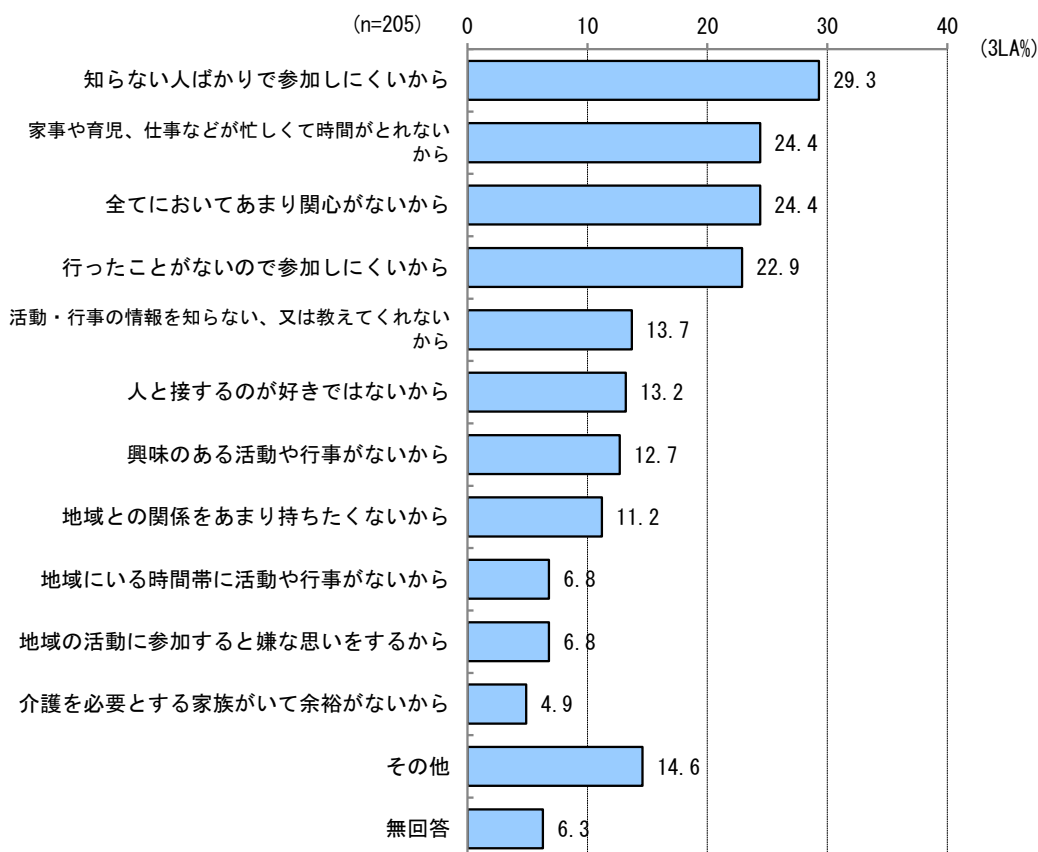
現在、地域活動に参加していると回答した人に、自治会や地域活動の課題をたずねると、「高齢者世帯が増えている」が77.8%で最も多く、次いで「子どもが減っている」が51.0%、「空き家が増えてきた」が29.4%となっている。（図3-6）

(7) 地域活動に参加しない理由

【注記】問21で「3. これまで参加したことがないが、今後機会があれば参加したい」、「4. これまでは参加していたが、今後は参加するつもりはない」、「5. これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」と回答した方にお聞きします。

問21-4 地域活動に参加しない理由は何ですか。(〇は3つまで)

【図3-7 地域活動に参加しない理由】



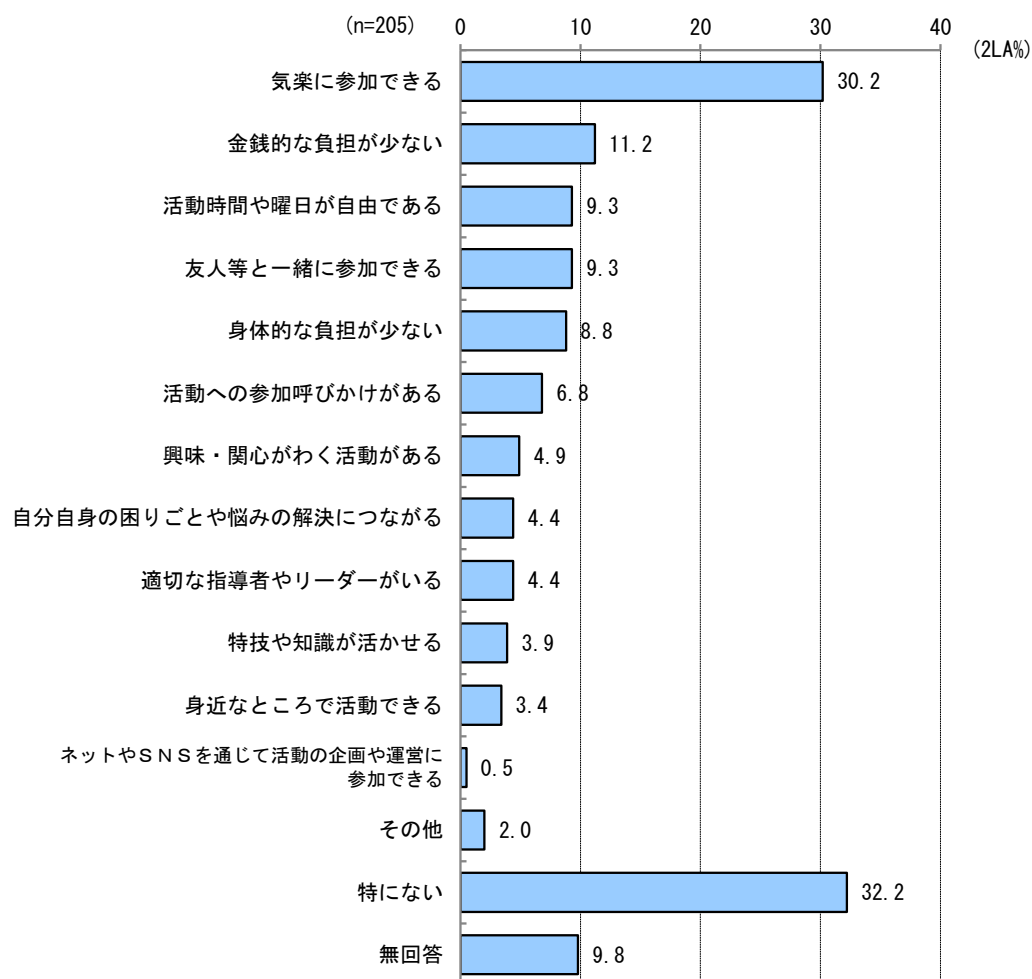
現在、地域活動に参加していないと回答した人に、その理由をたずねると、「知らない人ばかりで参加しにくいから」が29.3%で最も多く、次いで「家事や育児、仕事などが忙しくて時間がとれないから」と「全てにおいてあまり関心がないから」がともに24.4%、「行ったことがないので参加しにくいから」が22.9%となっている。(図3-7)

（８）地域活動に参加したいと思える条件

【注記】問21で「３．これまで参加したことがないが、今後機会があれば参加したい」、「４．これまで参加していたが、今後は参加するつもりはない」、「５．これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」と回答した方にお聞きします。

問21-5 どのような条件であれば、地域活動に参加したいと思いますか。（○は２つまで）

【図3-8 地域活動に参加したいと思える条件】

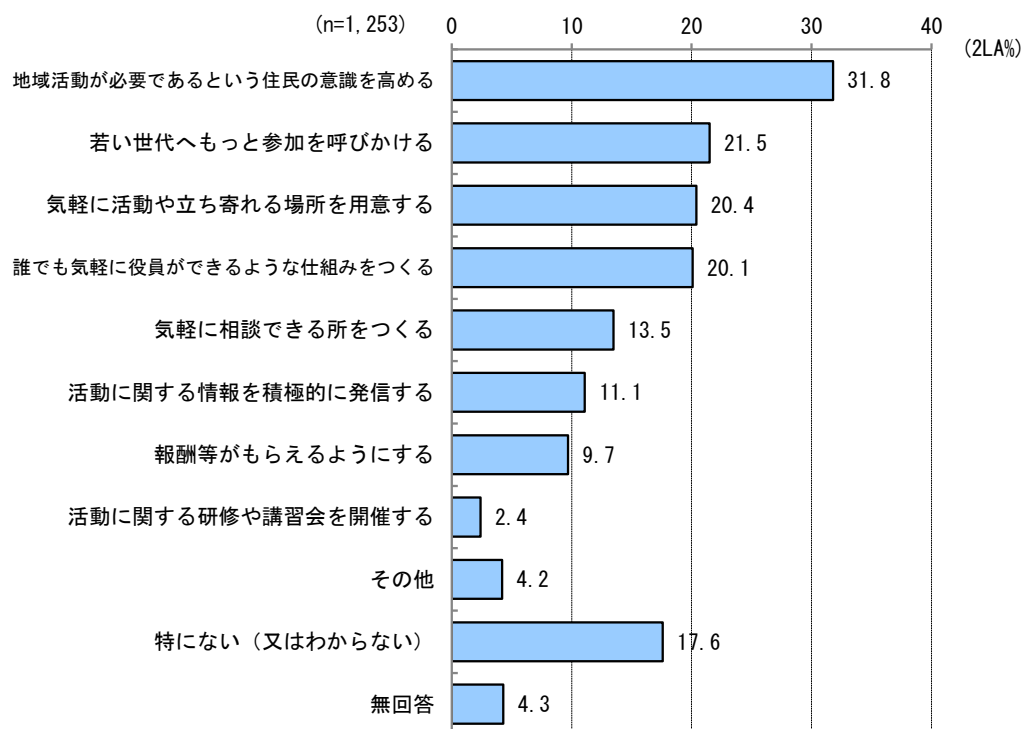


現在、地域活動に参加していないと回答した人に、参加したいと思える条件をたずねると、「特にない」が32.2%を占めている。一方、参加意向のある人では、「気楽に参加できる」が30.2%で最も多く、次いで「金銭的な負担が少ない」が11.2%となっている。（図3-8）

（８）地域活動の輪をさらに広げるために特に必要なこと

問22 今後、地域活動の輪をさらに広げていくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。（○は２つ）

【図3-8 地域活動の輪をさらに広げるために特に必要なこと】



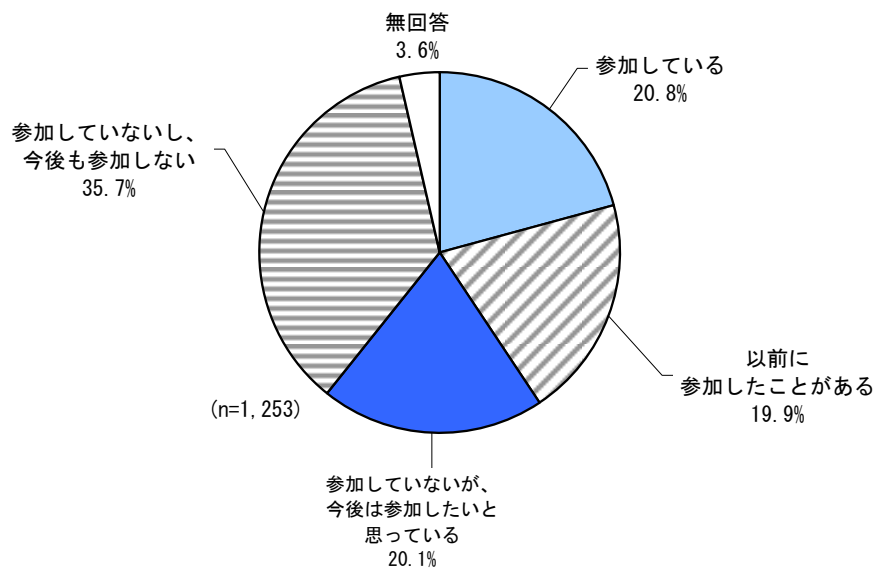
地域活動の輪をさらに広げるために特に必要なことは、「地域活動が必要であるという住民の意識を高める」が31.8%で最も多く、次いで「若い世代へもっと参加を呼びかける」が21.5%、「気軽に活動や立ち寄れる場所を用意する」が20.4%、「誰でも気軽に役員ができるような仕組みをつくる」が20.1%となっている。（図3-8）

4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動の参加状況

問23 ボランティア活動に参加していますか。(○は1つ)

【図4-1 ボランティア活動の参加状況】



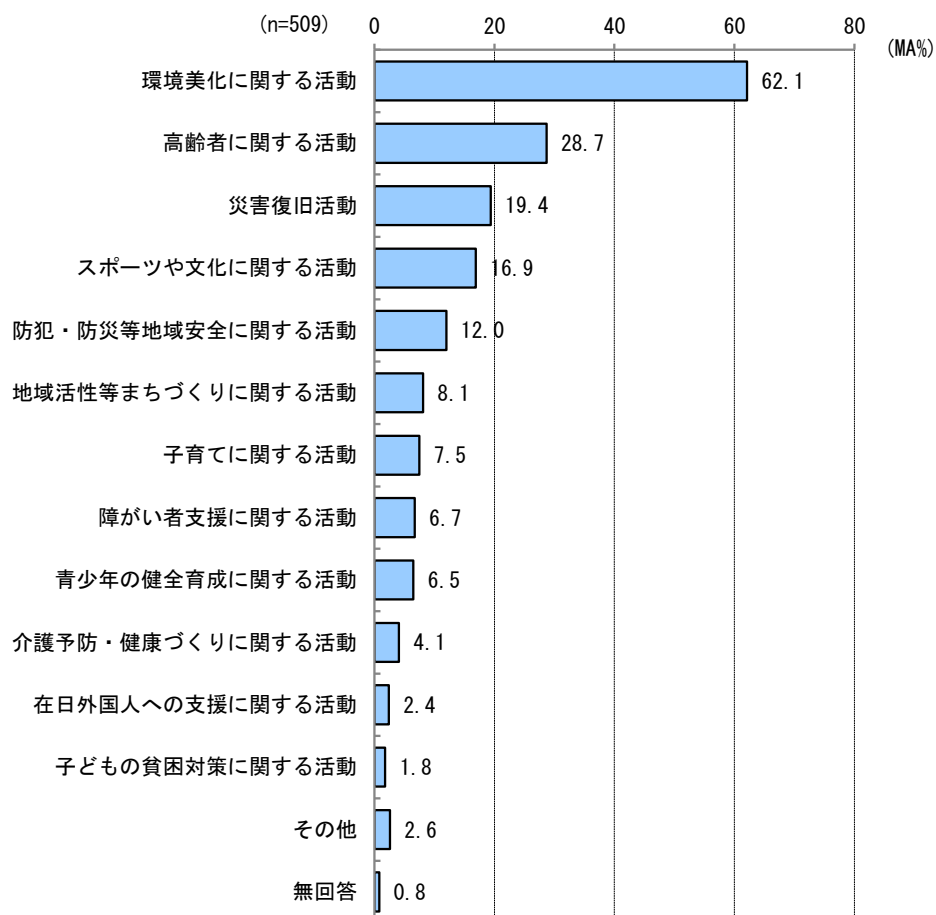
ボランティア活動に参加しているかについて、「参加していないし、今後も参加しない」が35.7%で最も多く、次いで「参加している」が20.8%、「参加していないが、今後は参加したいと思っている」が20.1%となっている。(図4-1)

(2) 参加したことのあるボランティア活動

【注記】問23で「1. 参加している」、「2. 以前に参加したことがある」と回答した方にお聞きします。

問23-1 どのようなボランティア活動に参加してきましたか。(〇はいくつでも)

【図4-2 参加したことのあるボランティア活動】



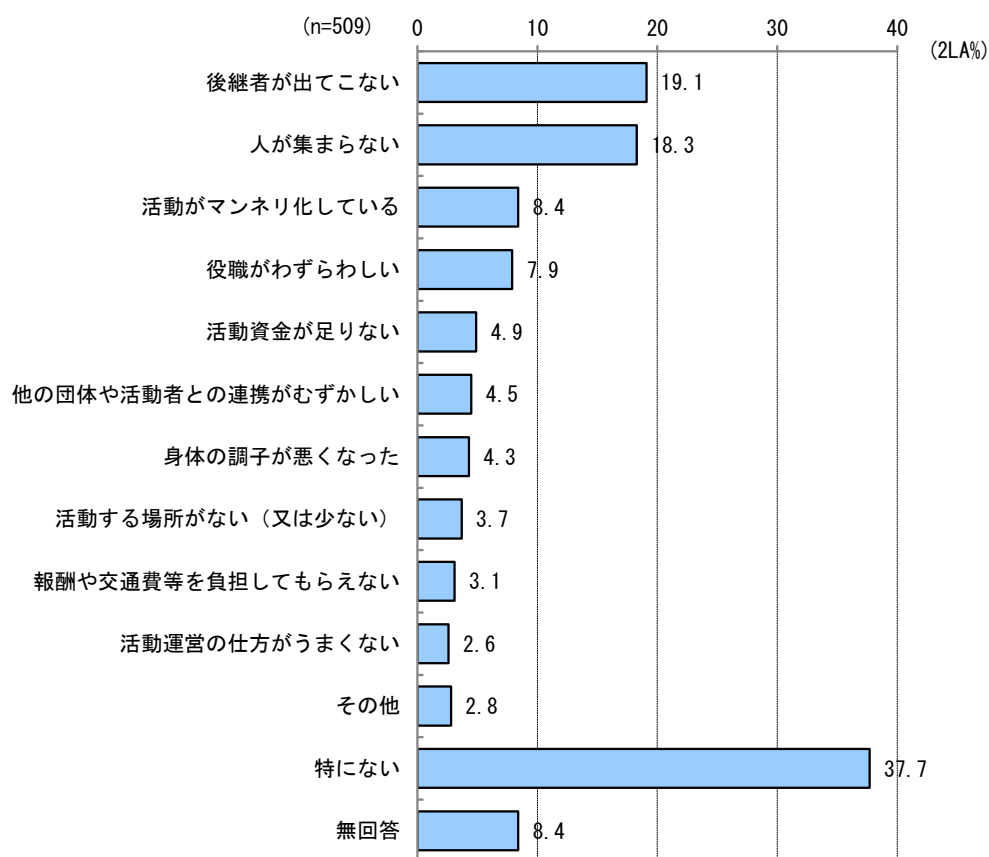
ボランティア活動の参加経験がある人に、活動内容をたずねると「環境美化に関する活動」が62.1%で最も多く、次いで「高齢者に関する活動」が28.7%、「災害復旧活動」が19.4%となっている。(図4-2)

(3) ボランティア活動中で困ったこと

【注記】問23で「1. 参加している」、「2. 以前に参加したことがある」と回答した方にお聞きします。

問23-2 ボランティア活動中に困ったことがありましたか。(〇は2つまで)

【図4-3 ボランティア活動中で困ったこと】



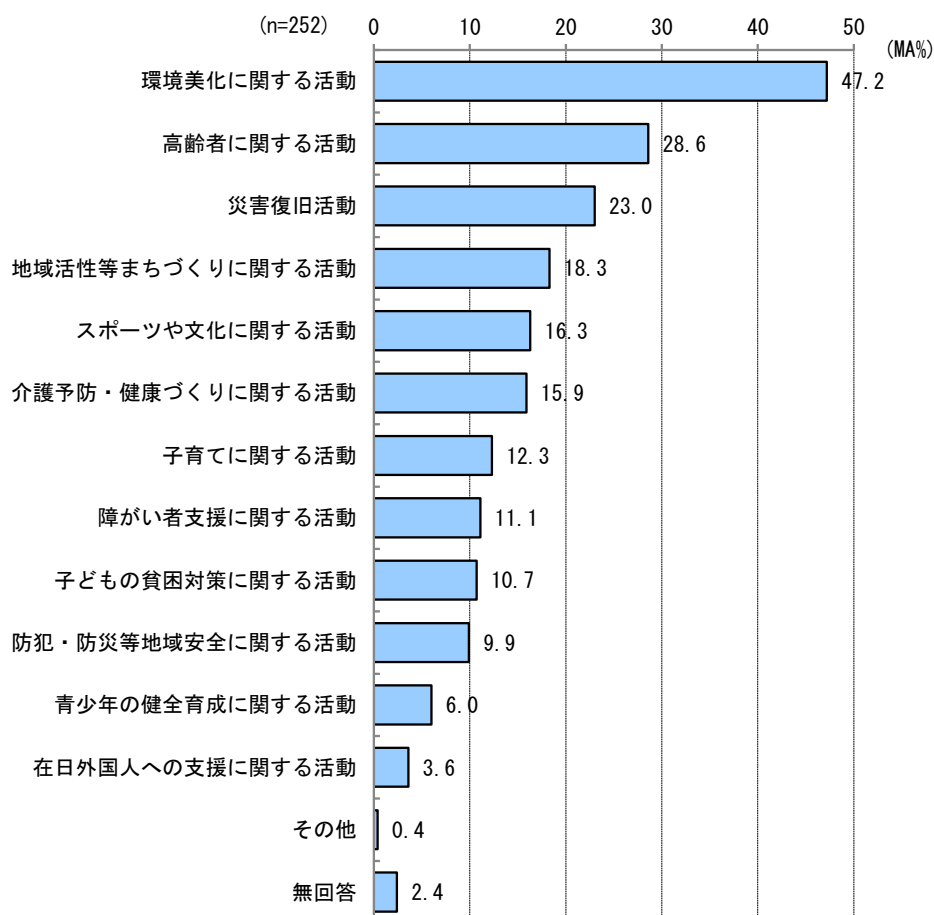
ボランティア活動の参加経験がある人に、活動中で困ったことをたずねると、「特にない」が37.7%を占めている。一方、困ったことがある人では、「後継者が出てこない」が19.1%で最も多く、次いで「人が集まらない」が18.3%となっている。(図4-3)

(4) 参加したいボランティア活動

【注記】問23で「3. 参加していないが、今後参加したいと思っている」と回答した方にお聞きします。

問23-3 どんな活動をしたいですか。(〇はいくつでも)

【図4-4 参加したいボランティア活動】

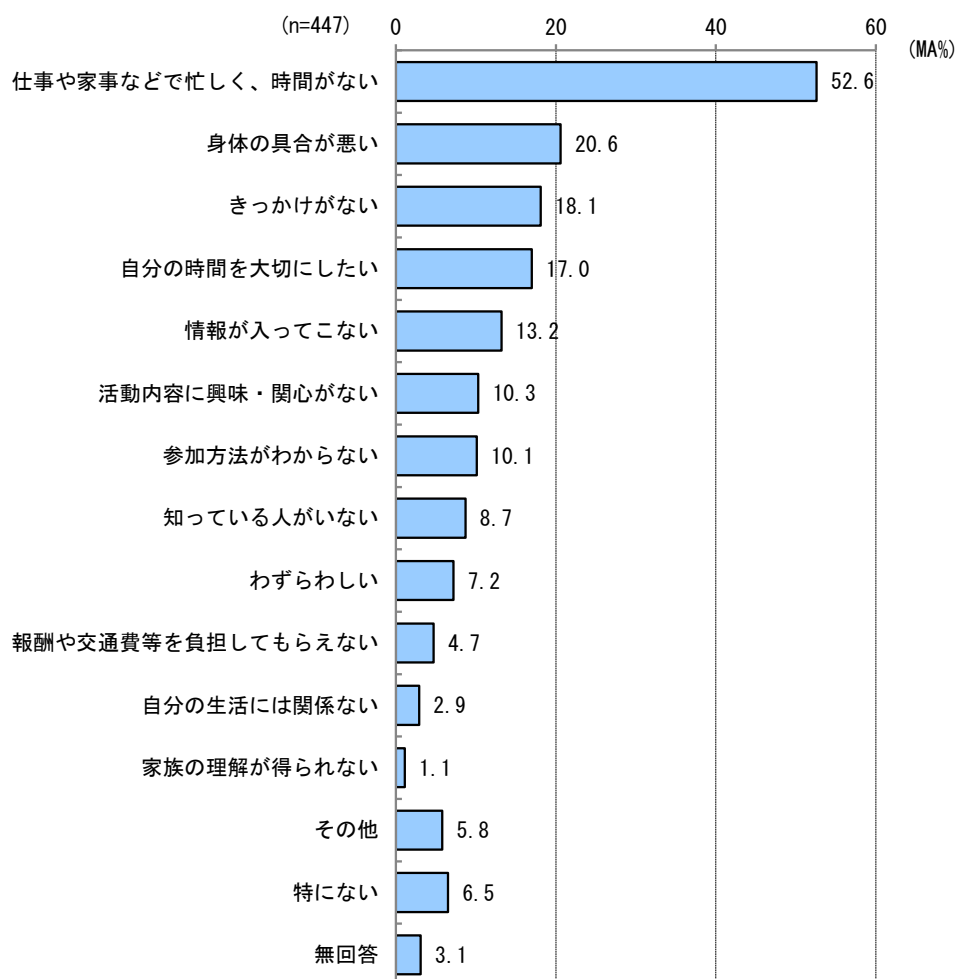


ボランティア活動に現在参加していないが、今後参加したいと回答した人に、参加意向のある活動をたずねると、「環境美化に関する活動」が47.2%で最も多く、次いで「高齢者に関する活動」が28.6%、「災害復旧活動」が23.0%となっている。(図4-4)

（５）ボランティア活動に参加しない理由

【注記】問23で「４．参加していないし、今後も参加しない」と回答した方にお聞きします。
問23-4 参加しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

【図4-5 ボランティア活動に参加しない理由】

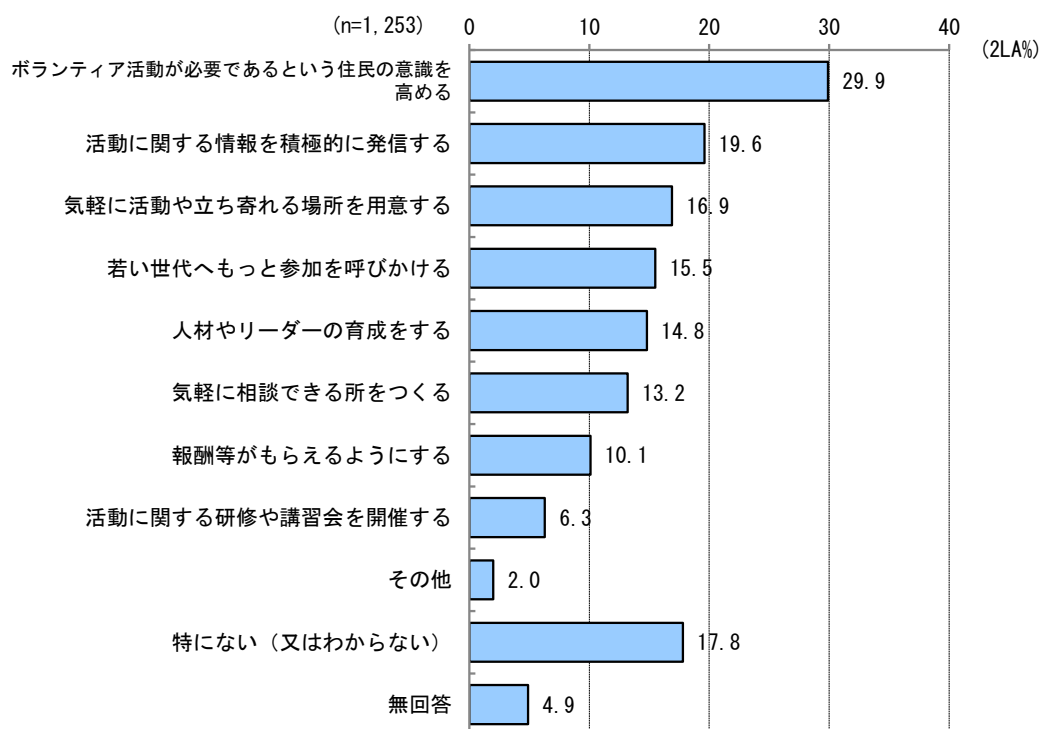


ボランティア活動に今後も参加しないと回答した人に、その理由をたずねると、「仕事や家事などで忙しく、時間がない」が52.6%で最も多く、次いで「身体の具合が悪い」が20.6%、「きっかけがない」が18.1%となっている。（図4-5）

（６）ボランティア活動を広げるために特に必要なこと

問24 ボランティア活動を広げるためにはどのようなことが特に必要だと思いますか。
（○は2つまで）

【図4-6 ボランティア活動を広げるために特に必要なこと】



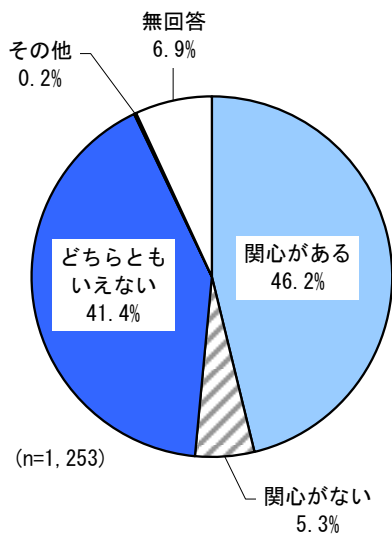
ボランティア活動を広げるために特に必要なことは、「ボランティア活動が必要であるという住民の意識を高める」が29.9%で最も多く、次いで「活動に関する情報を積極的に発信する」が19.6%、「気軽に活動や立ち寄れる場所を用意する」が16.9%となっている。（図4-6）

5. 福祉に関する考えについて

(1) 福祉に関して関心の有無

問25 あなたは、福祉に関心がありますか。(○は1つ)

【図5-1 福祉に関して関心の有無】

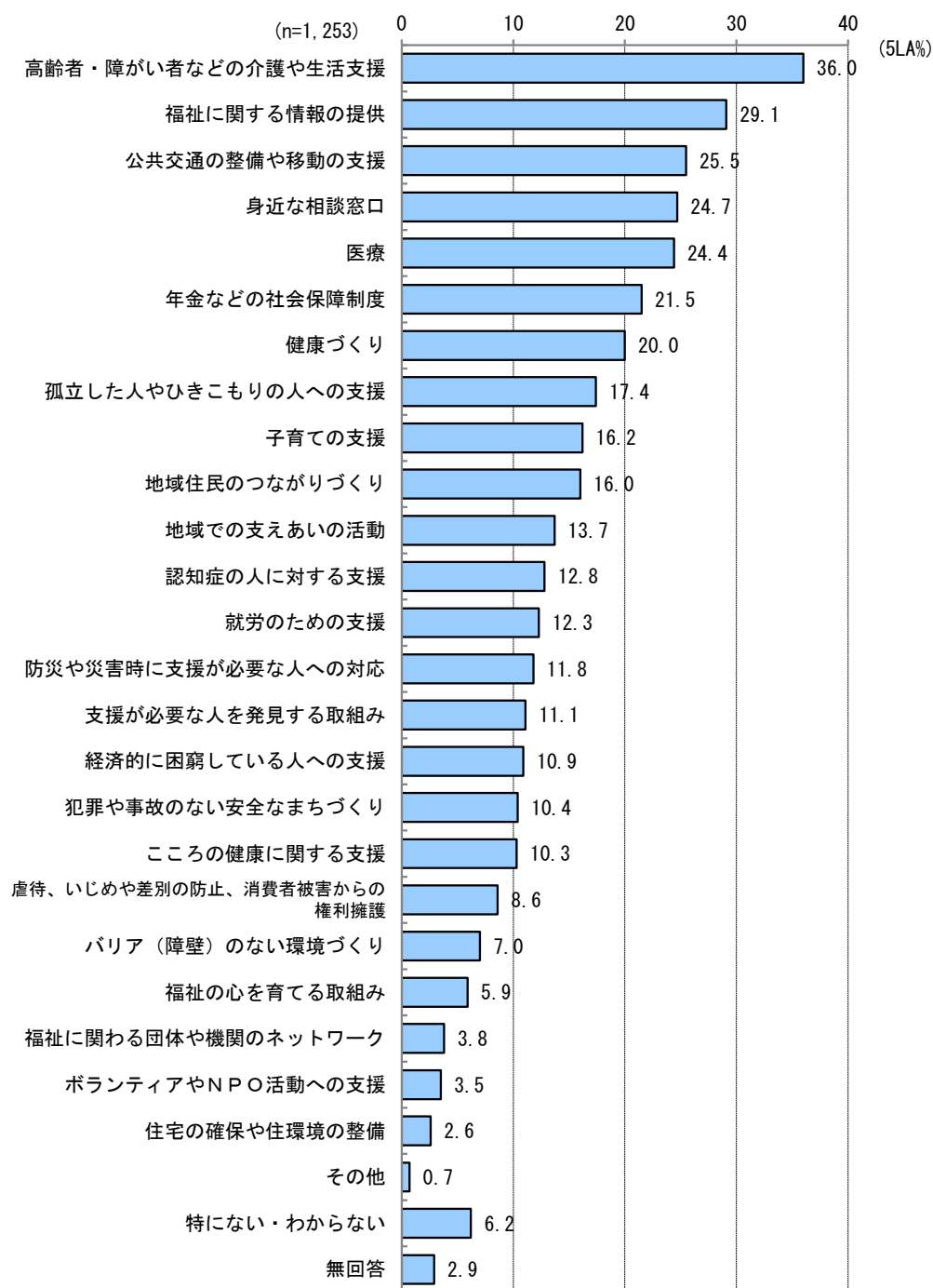


福祉に関して、「関心がある」が46.2%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が41.4%、「関心がない」は5.3%となっている。(図5-1)

(2) 地域福祉を充実するために特に優先的に取り組むべきこと

問26 あなたは、地域の福祉を充実するために、どのようなことに特に優先的に取り組むべきことだと思いますか。(〇は5つまで)

【図5-2 地域福祉を充実するために特に優先的に取り組むべきこと】

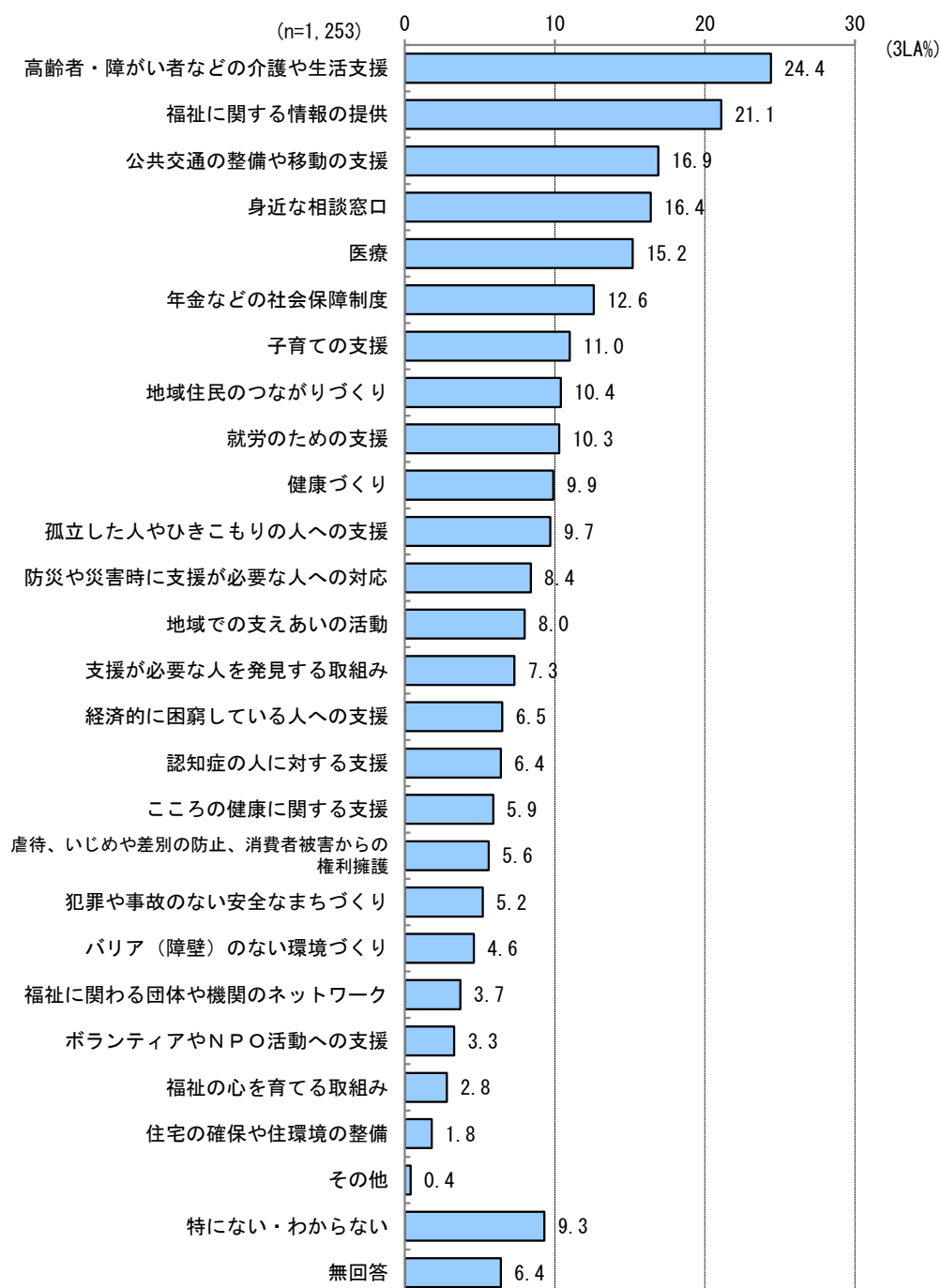


地域福祉を充実するために特に優先的に取り組むべきことは、「高齢者・障がい者などの介護や生活支援」が36.0%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が29.1%、「公共交通の整備や移動の支援」が25.5%、「身近な相談窓口」が24.7%、「医療」が24.4%となっている。(図5-2)

(3) 地域や民間団体・事業者などが積極的に取り組むべきこと

問27 問26の取組みで、地域や民間団体・事業者などが積極的に取り組むべきだと思うことがありますか。(○は3つまで)

【図5-3 地域や民間団体・事業者などが積極的に取り組むべきこと】



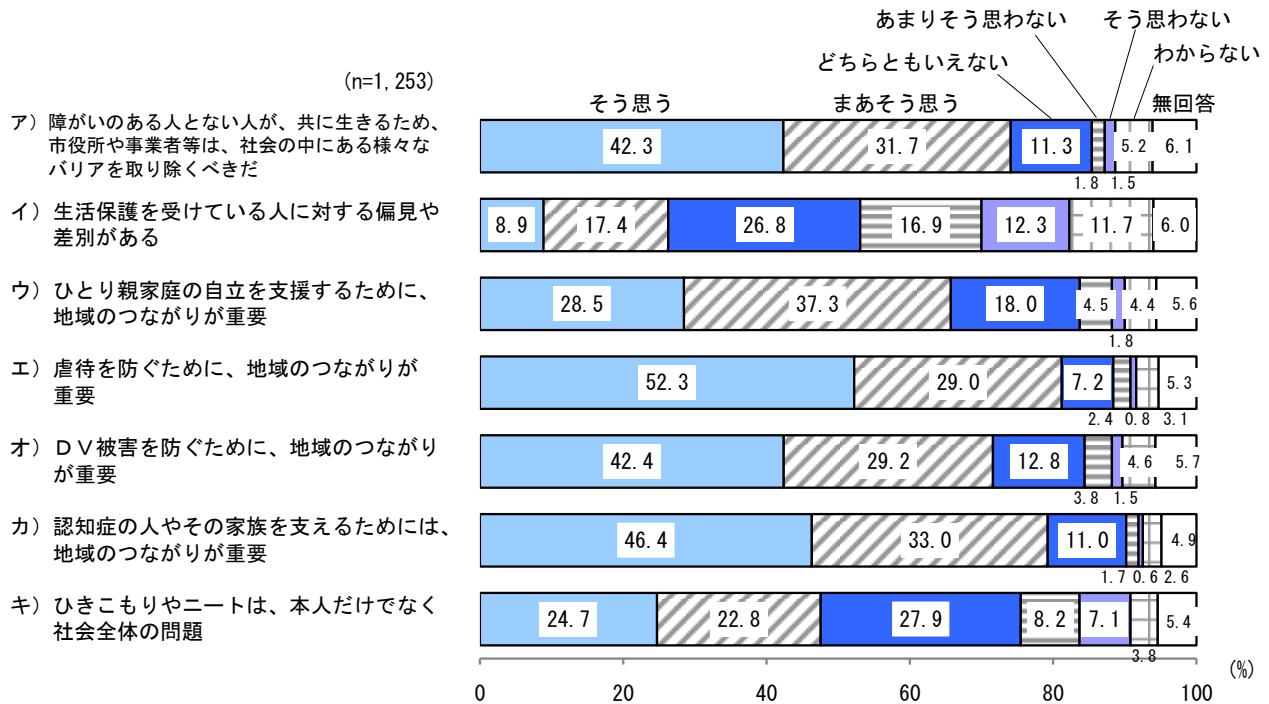
地域や民間団体・事業者などが積極的に取り組むべきことについては、「高齢者・障がい者などの介護や生活支援」が24.4%で最も多く、次いで「福祉に関する情報の提供」が21.1%、「公共交通の整備や移動の支援」が16.9%となっている。(図5-3)

(4) 地域や社会に対する考え方

問28 次のような考え方についてどう思いますか。

(ア～キについて、それぞれ該当する番号(1～6)を選択してください。)

【図5-4 地域や社会に対する考え方】



地域や社会に対する考え方については下記の通りである。

“ア) 障がいのある人とない人が、共に生きるため、市役所や事業者等は、社会の中にある様々なバリアを取り除くべきだ”については、「そう思う」が42.3%で最も多く、「まあそう思う」を合わせると74.0%を占めている。

“イ) 生活保護を受けている人に対する偏見や差別がある”については、「どちらともいえない」が26.8%で最も多くなっている。「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定派は26.3%に対し、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定派は29.2%となっている。

“ウ) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域のつながりが重要”については、「まあそう思う」が37.3%で最も多く、「そう思う」を合わせると65.8%を占めている。

“エ) 虐待を防ぐために、地域のつながりが重要”については、「そう思う」が52.3%を占めており、「まあそう思う」を合わせると81.3%となっている。

“オ) DV被害を防ぐために、地域のつながりが重要”については、「そう思う」が42.4%で最も多く、「まあそう思う」を合わせると71.6%を占めている。

“カ) 認知症の人やその家族を支えるためには、地域のつながりが重要”については、「そう思う」が46.4%で最も多く、「まあそう思う」を合わせると79.4%を占めている。

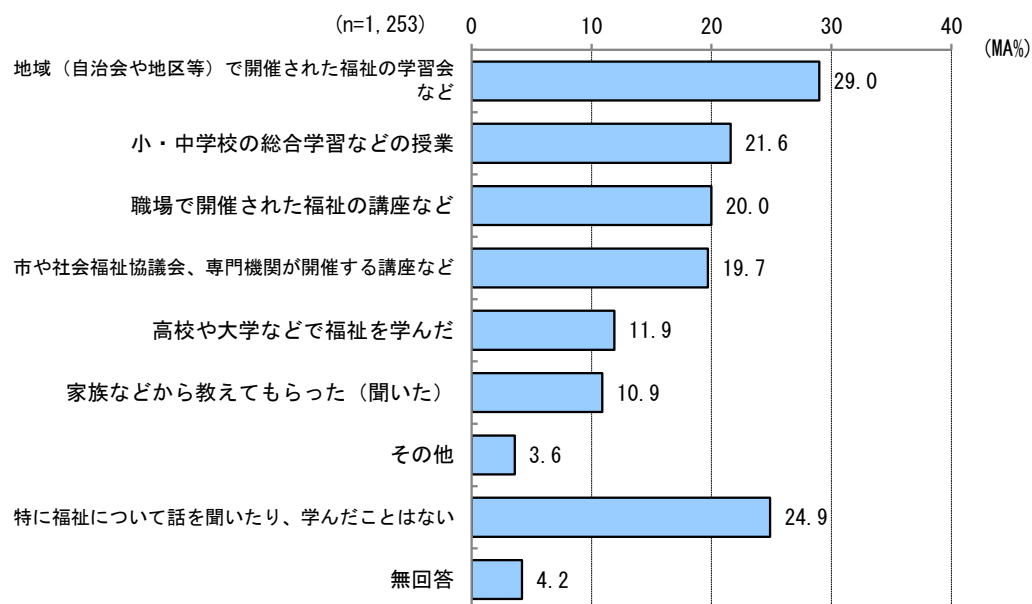
“キ) ひきこもりやニートは、本人だけでなく社会全体の問題”については、「どちらともいえない」が27.9%で最も多くなっているが、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定派は47.5%となっている。

(図5-4)

（５）福祉について話を聞いたり、学んだこと

問29 あなたは、どこかで福祉について話を聞いたり、学んだことがありますか。
（○はいくつでも）

【図5-5 福祉について話を聞いたり、学んだこと】

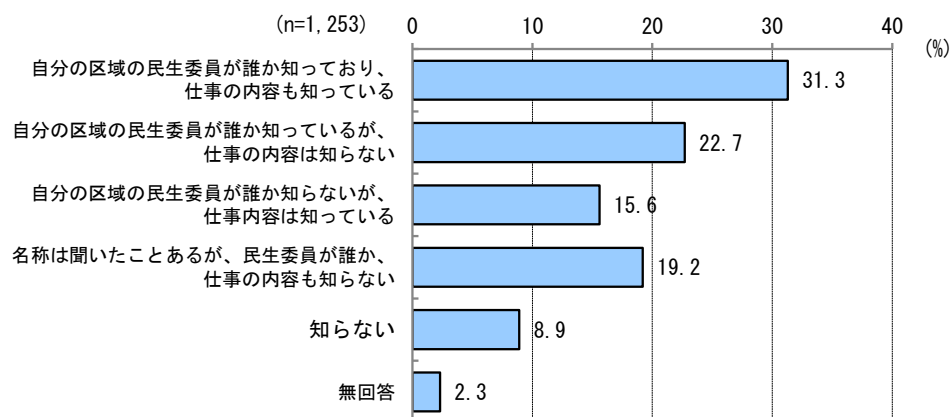


福祉について話を聞いたり、学んだことは、「地域（自治会や地区等）で開催された福祉の学習会など」が29.0%で最も多く、次いで「小・中学校の総合学習などの授業」が21.6%、「職場で開催された福祉の講座など」が20.0%、「市や社会福祉協議会、専門機関が開催する講座など」が19.7%となっている。一方、「特に福祉について話を聞いたり、学んだことはない」では24.9%と約4人に1人の割合となっている。（図5-5）

(6) 民生委員・児童委員の認知度

問30 あなたは、福祉に関する相談ボランティアである「民生委員・児童委員（主任児童委員を含む）」についてご存じですか。（○は1つ）

【図5-6 民生委員・児童委員の認知度】



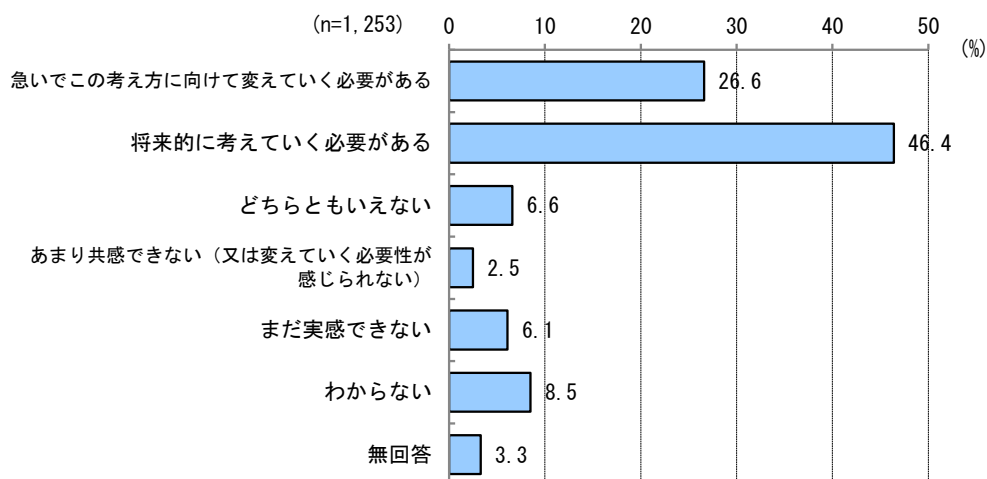
民生委員・児童委員の認知度については、「自分の区域の民生委員が誰か知っており、仕事の内容も知っている」が31.3%で最も多く、次いで「自分の区域の民生委員が誰か知っているが、仕事の内容は知らない」が22.7%、「名称は聞いたことあるが、民生委員が誰か、仕事の内容も知らない」が19.2%となっている。（図5-6）

6. 人生 100 年時代に向けた福祉のあり方について

(1) 地域共生社会の実現という考え方に対する考え

問31 「地域共生社会の実現」という考え方について、どう思われますか。(○は1つ)

【図6-1 地域共生社会の実現という考え方に対する考え】

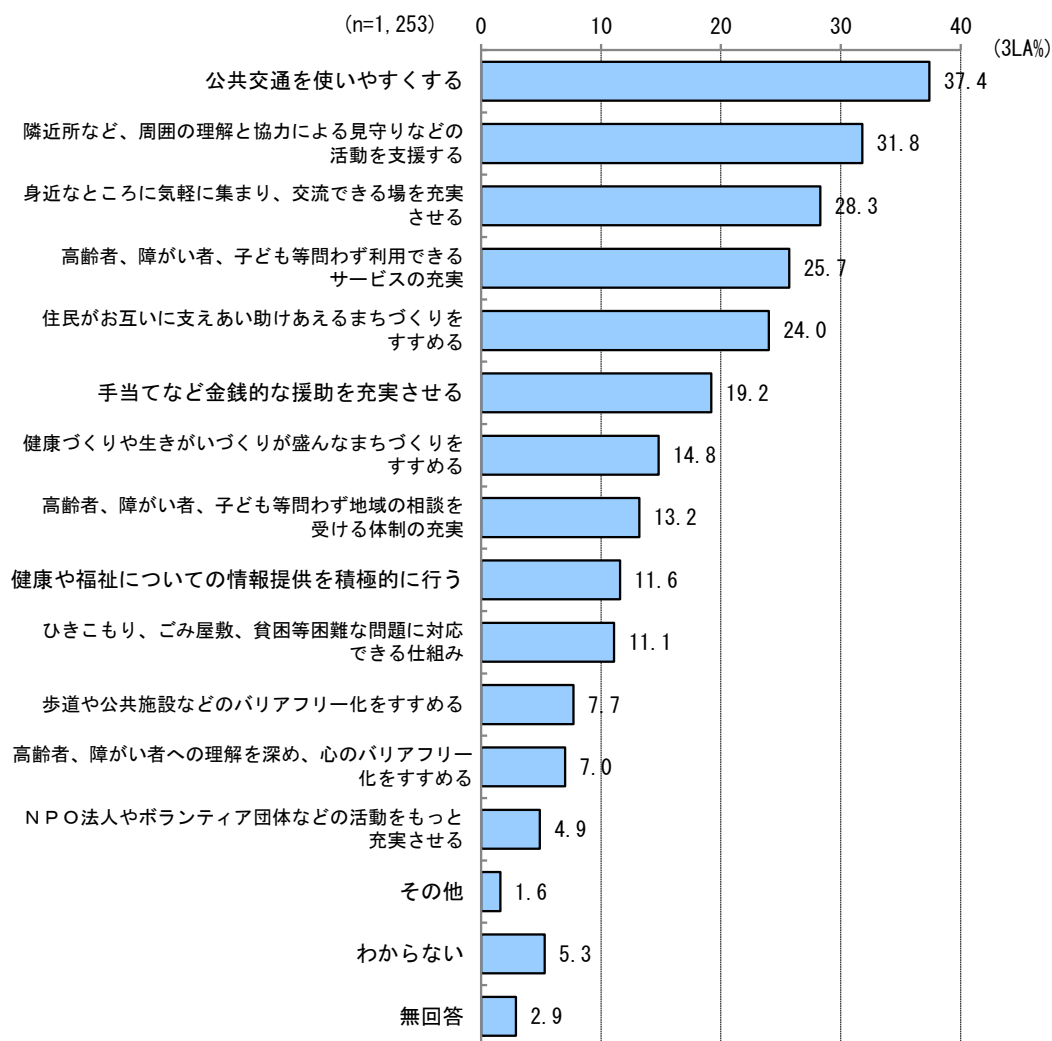


地域共生社会の実現という考え方について、「将来的に考えていく必要がある」が46.4%で最も多く、次いで「急いでこの考え方に向けて変えていく必要がある」が26.6%となっており、両者を合わせると73.0%の人が肯定的に考えている。(図6-1)

(2) 支えられる側になった場合、特に重要だと考える取組み

問32 これからあなたが「支えられる（助けられる）側」になることを想像し、住み慣れた地域で安心して元気に生活していくために、あなたが特に重要だと考える取組みはどれですか。（〇は3つまで）

【図6-2 支えられる側になった場合、特に重要だと考える取組み】

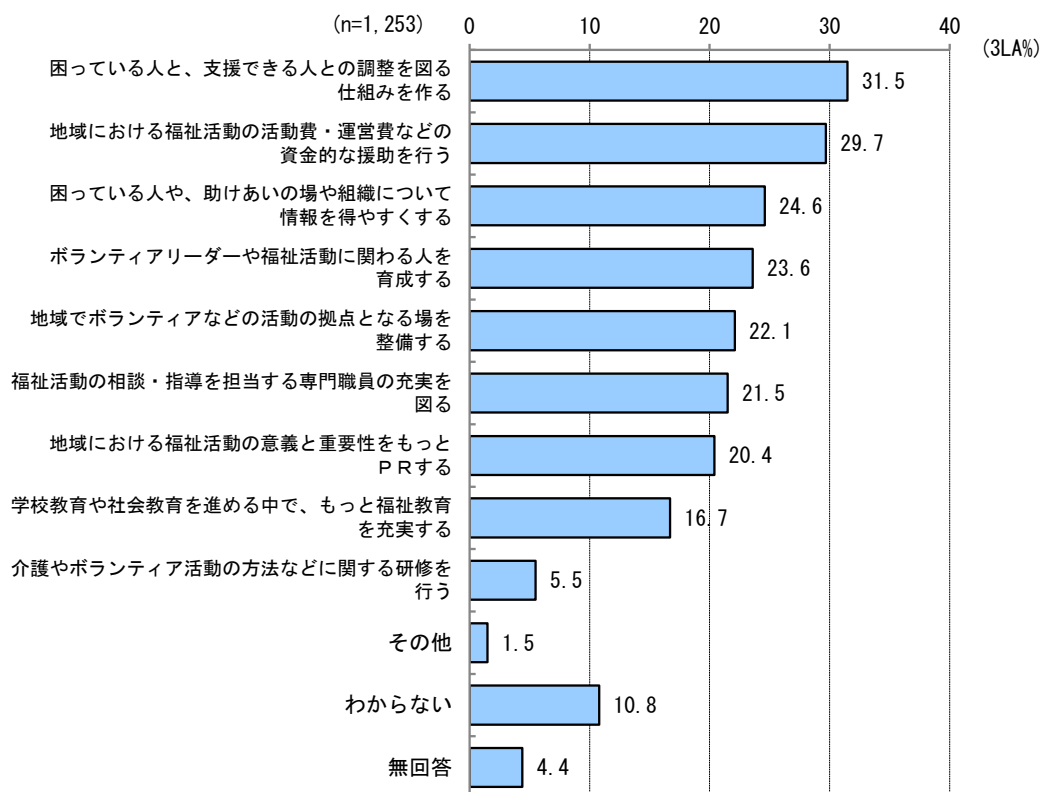


支えられる側になった場合、特に重要だと考える取組みについては、「公共交通を使いやすいにする」が37.4%で最も多く、次いで「隣近所など、周囲の理解と協力による見守りなどの活動を支援する」が31.8%、「身近なところに気軽に集まり、交流できる場を充実させる」が28.3%、「高齢者、障がい者、子ども等問わず利用できるサービスの充実」が25.7%、「住民がお互いに支えあい助けあえるまちづくりをすすめる」が24.0%となっている。（図6-2）

(3) 地域で助けあい、支えあい活動を活発にするための重要な手段

問33 地域において助けあい、支えあい活動を活発にするためには、どのようなこと（手段）が重要だと思いますか。（〇は3つまで）

【図6-3 地域で助けあい、支えあい活動を活発にするために重要な手段】

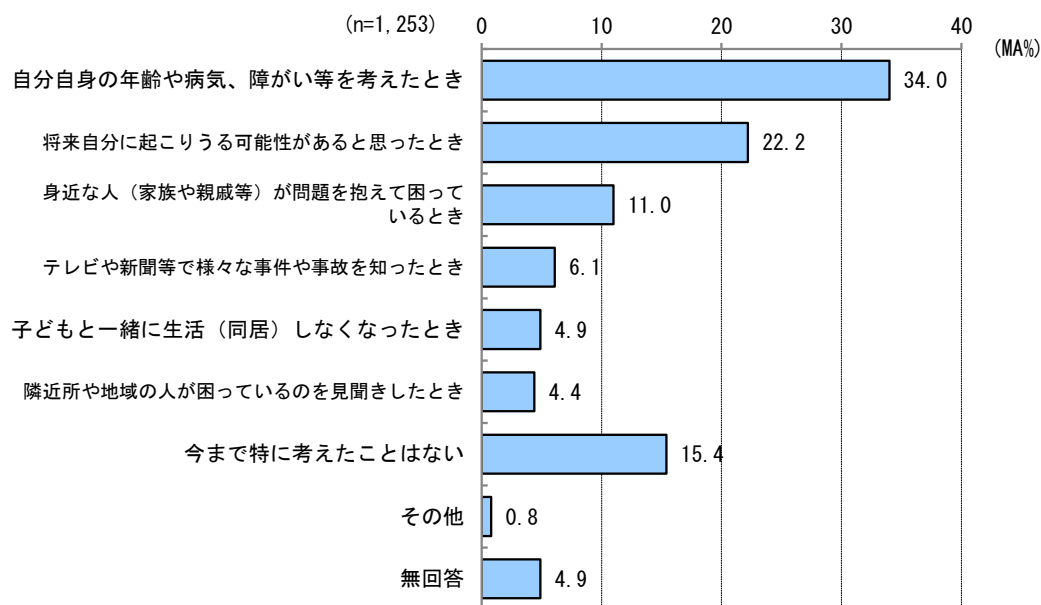


地域で助けあい、支えあい活動を活発にするための重要な手段については、「困っている人と、支援できる人との調整を図る仕組みを作る」が31.5%で最も多く、次いで「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」が29.7%、「困っている人や、助けあいの場や組織について情報を得やすくする」が24.6%となっている。（図6-3）

(4) 支えられる側になることをイメージしたきっかけ

問34 自分自身が、将来「支えられる側になる」ことをイメージされたことはありますか。そう思ったのはどんなときですか。(○は1つ)

【図6-4 支えられる側になることをイメージしたきっかけ】



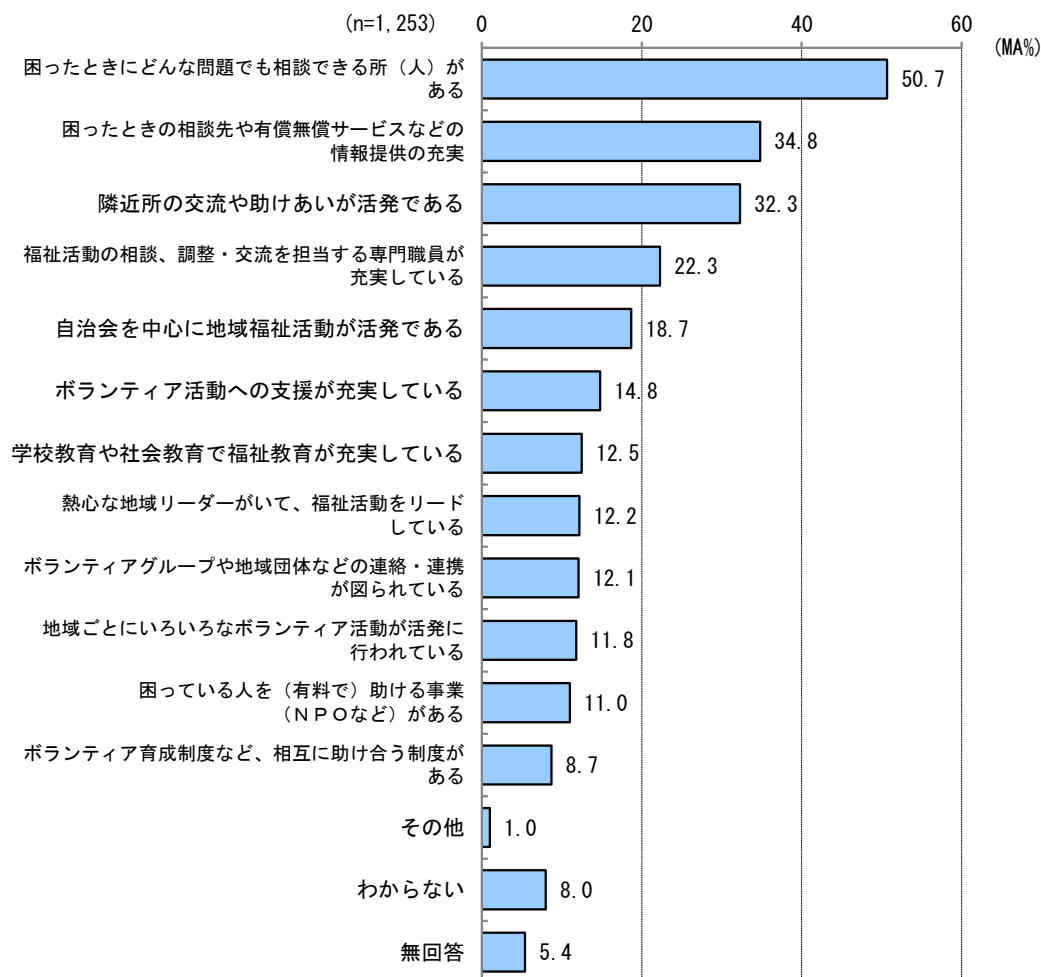
※複数回答をすべて有効。

支えられる側になることをイメージしたきっかけとしては、「自分自身の年齢や病気、障がい等を考えたとき」が34.0%で最も多く、次いで「将来自分に起こりうる可能性があると思ったとき」が22.2%、「身近な人（家族や親戚等）が問題を抱えて困っているとき」が11.0%となっている。一方、「今まで特に考えたことはない」では15.4%となっている。(図6-4)

（５）困ったときに助けあえる“まち”のイメージ

問35 困ったときに助け合える「まち」とは、どのような「まち」だと思いますか。
（○はいくつでも）

【図6-5 困ったときに助けあえる“まち”のイメージ】

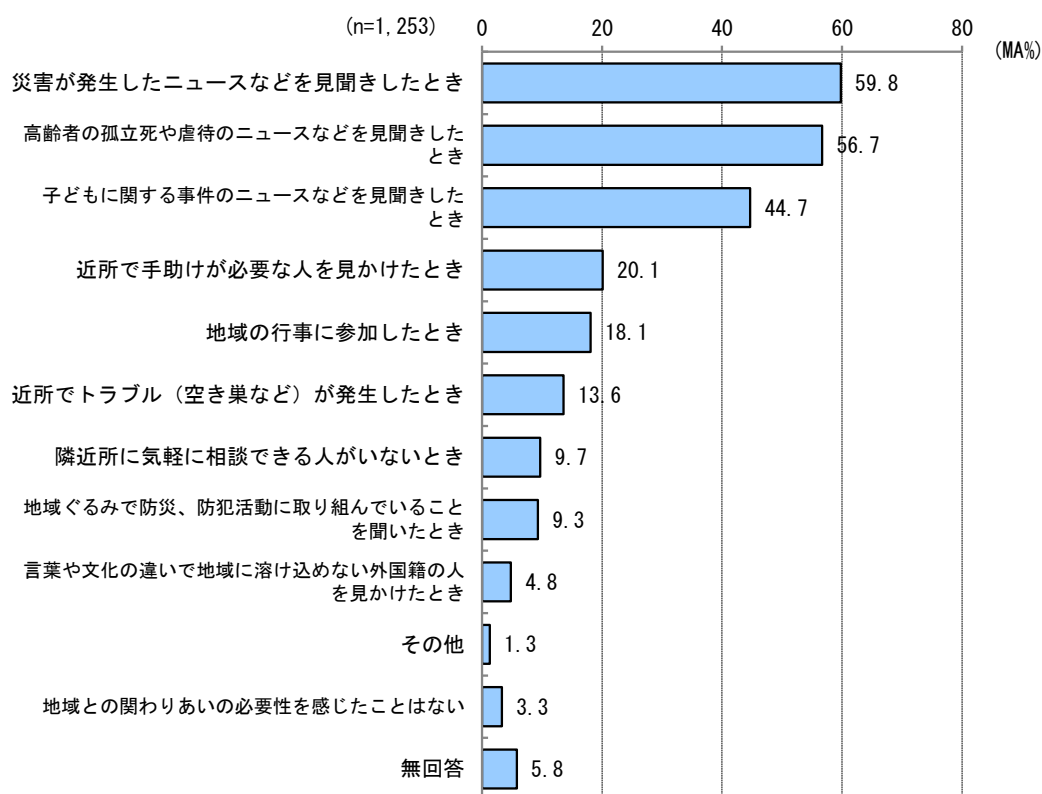


困ったときに助けあえる“まち”のイメージについては、「困ったときにどんな問題でも相談できる所（人）がある」が50.7%で最も多く、次いで「困ったときの相談先や有償無償サービスなどの情報提供の充実」が34.8%、「隣近所の交流や助けあいが活発である」が32.3%となっている。（図6-5）

（６）地域との関わりあいの必要性を感じるとき

問36 あなたは、どのようなときに地域との関わりあいの必要性を感じますか。
（○はいくつでも）

【図6-6 地域との関わりあいの必要性を感じるとき】

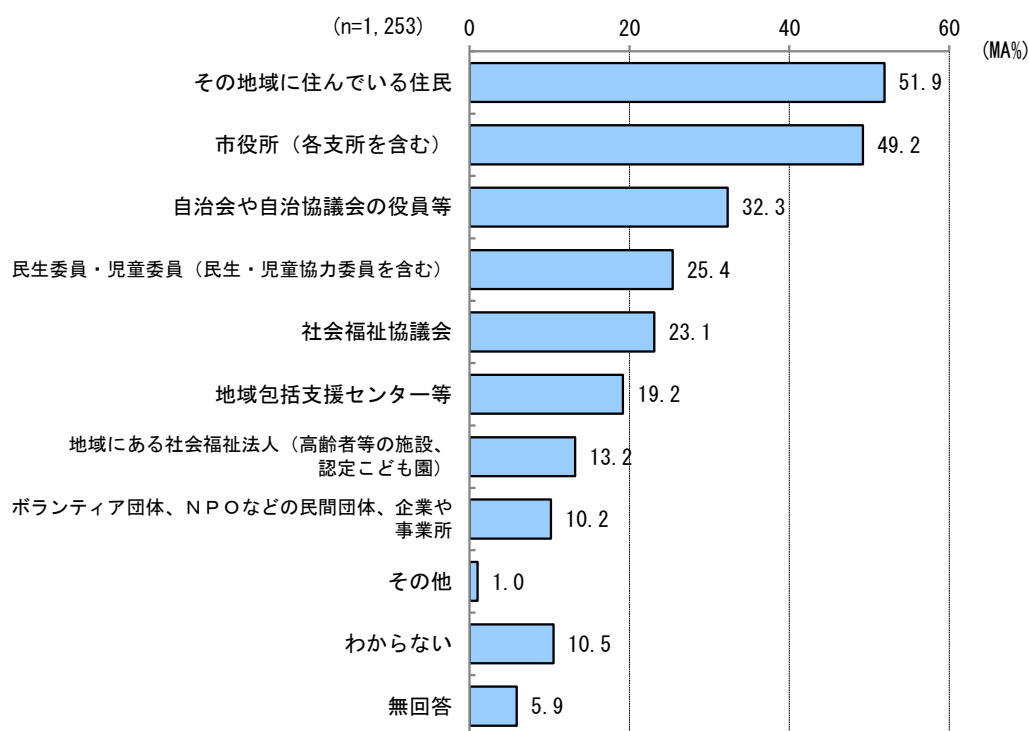


地域との関わりあいの必要性を感じるときには、「災害が発生したニュースなどを見聞きしたとき」が59.8%で最も多く、次いで「高齢者の孤立死や虐待のニュースなどを見聞きしたとき」が56.7%、「子どもに関する事件のニュースなどを見聞きしたとき」が44.7%となっている。（図6-6）

(7) 地域における課題や問題を解決するために中心となる人や関係機関

問37 あなたは、地域における生活課題や問題は、どのような人や関係機関が中心となって解決していけばいいと思いますか。(〇はいくつでも)

【図6-7 地域における課題や問題を解決するために中心となる人物や関係機関】

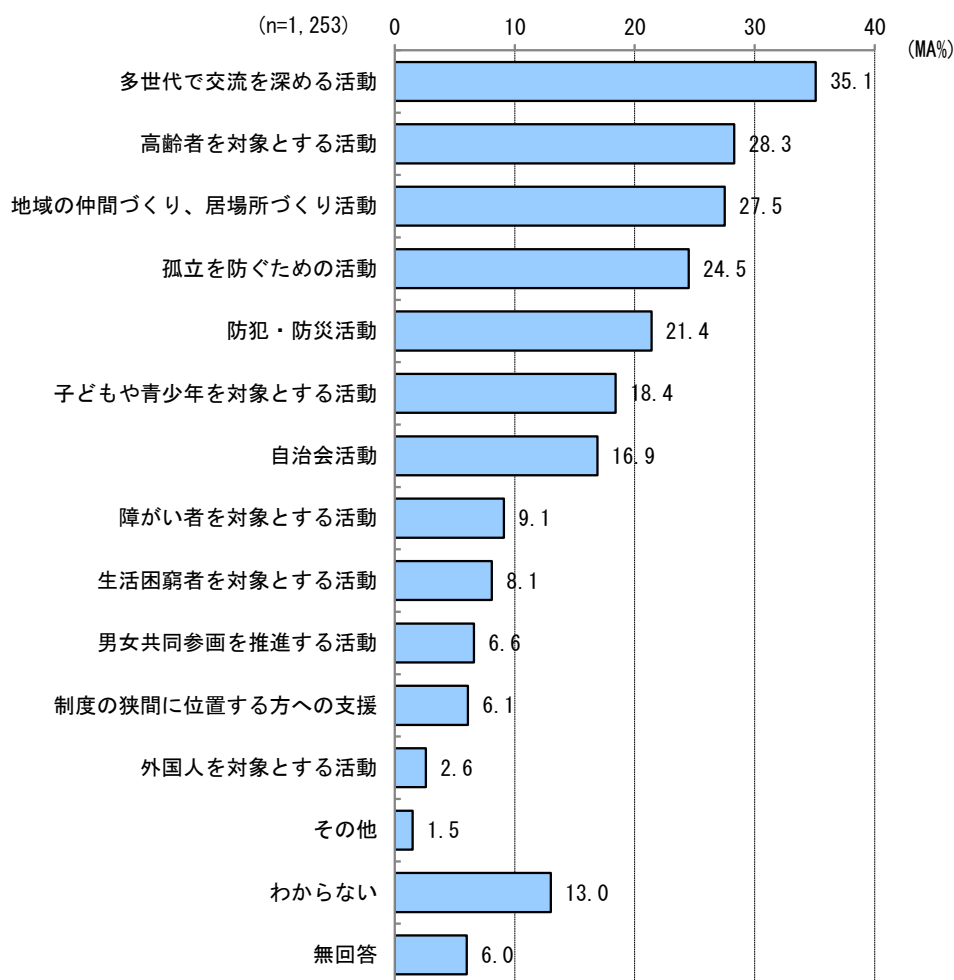


地域における課題や問題を解決するために中心となる人や関係機関については、「その地域に住んでいる住民」が51.9%で最も多く、次いで「市役所 (各支所を含む)」が49.2%、「自治会や自治協議会の役員等」が32.3%となっている。(図6-7)

（８）地域において力を入れて取り組むべき活動

問38 あなたは、現在、地域において力を入れて取り組むべきものはどのような活動だと思いますか。（○はいくつでも）

【図6-8 地域において力を入れて取り組むべき活動】

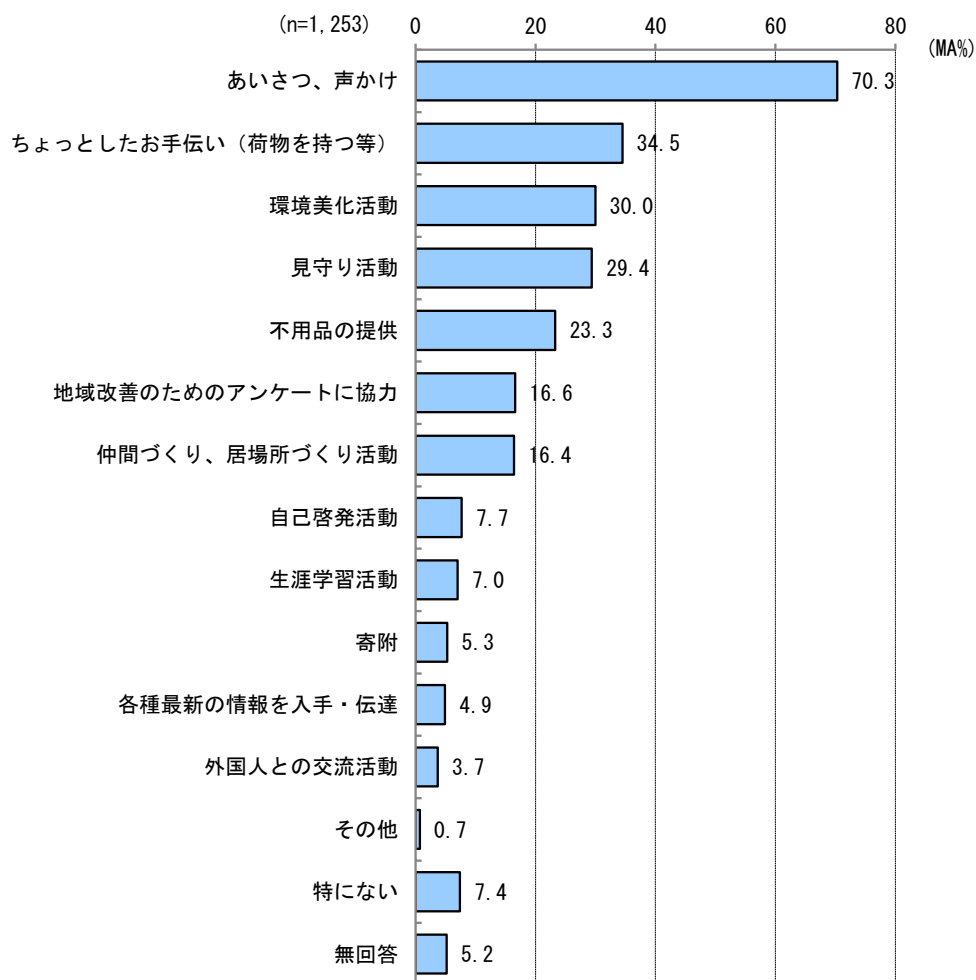


地域において力を入れて取り組むべき活動については、「多世代で交流を深める活動」が35.1%で最も多く、次いで「高齢者を対象とする活動」が28.3%、「地域の仲間づくり、居場所づくり活動」が27.5%となっている。（図6-8）

(9) 自身が取り組める活動

問39 あなた自身が取り組める活動はどのような活動ですか。(〇はいくつでも)

【図6-9 自身に取り組める活動】



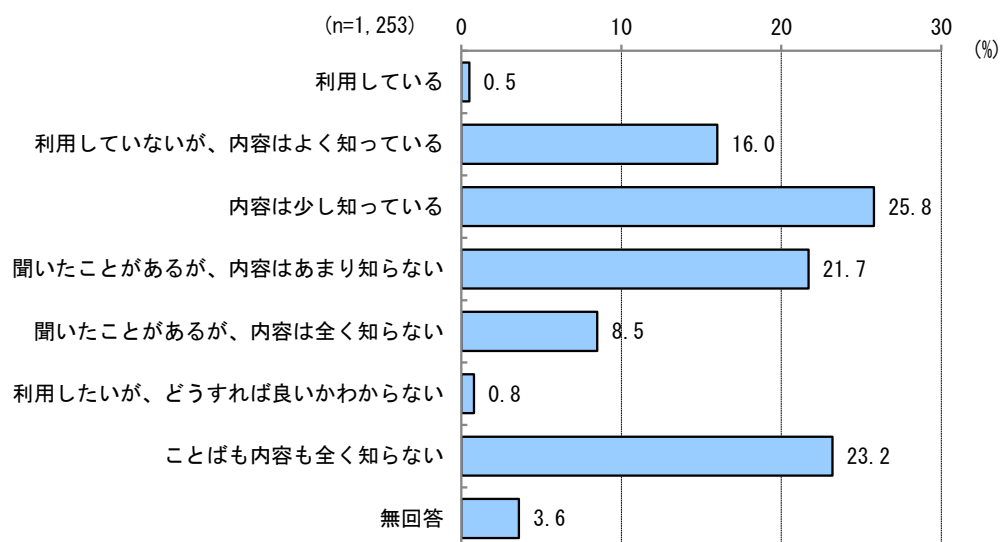
自身に取り組める活動については、「あいさつ、声かけ」が70.3%で最も多く、次いで「ちょっとしたお手伝い（荷物を持つ等）」が34.5%、「環境美化活動」が30.0%、「見守り活動」が29.4%となっている。（図6-9）

7. 地域福祉に関する制度等について

(1) 成年後見制度の認知度

問40 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

【図7-1 成年後見制度の認知度】

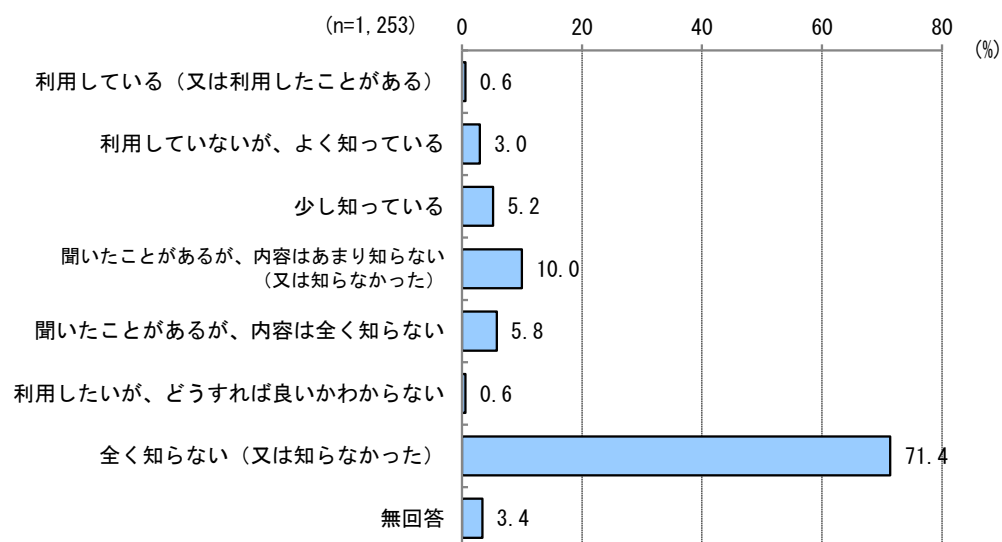


成年後見制度の認知度については、「内容は少し知っている」が25.8%で最も多く、次いで「ことばも内容も全く知らない」が23.2%、「聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」が21.7%となっている。なお、「利用している」は0.5%、「利用していないが、内容はよく知っている」は16.0%となっている。(図7-1)

（２）生活自立相談窓口“めばえ”の認知度

問41 生活自立相談窓口「めばえ」を知っていますか。（○は１つ）

【図7-2 生活自立相談窓口“めばえ”の認知度】

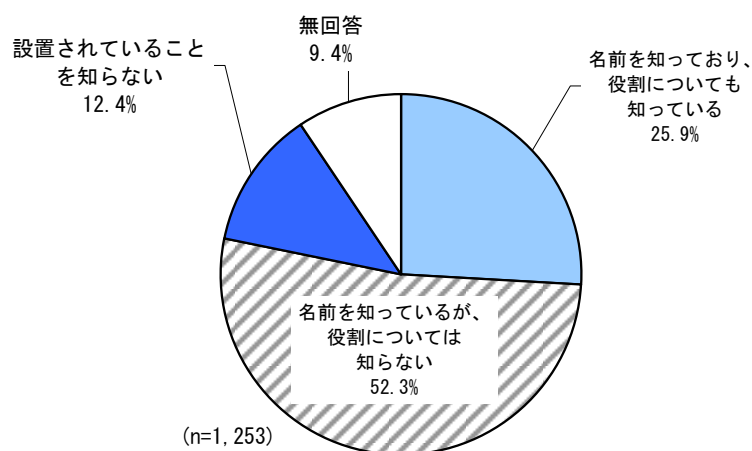


生活自立相談窓口“めばえ”の認知度については、「全く知らない（又は知らなかった）」が71.4%を占めている。一方、「利用している（又は利用したことがある）」は0.6%、「利用していないが、よく知っている」は3.0%となっている。（図7-2）

(3) 社会福祉協議会の認知度

問42 あなたは、社会福祉協議会が設置されていることを知っていますか。(○は1つ)

【図7-3 社会福祉協議会の認知度】



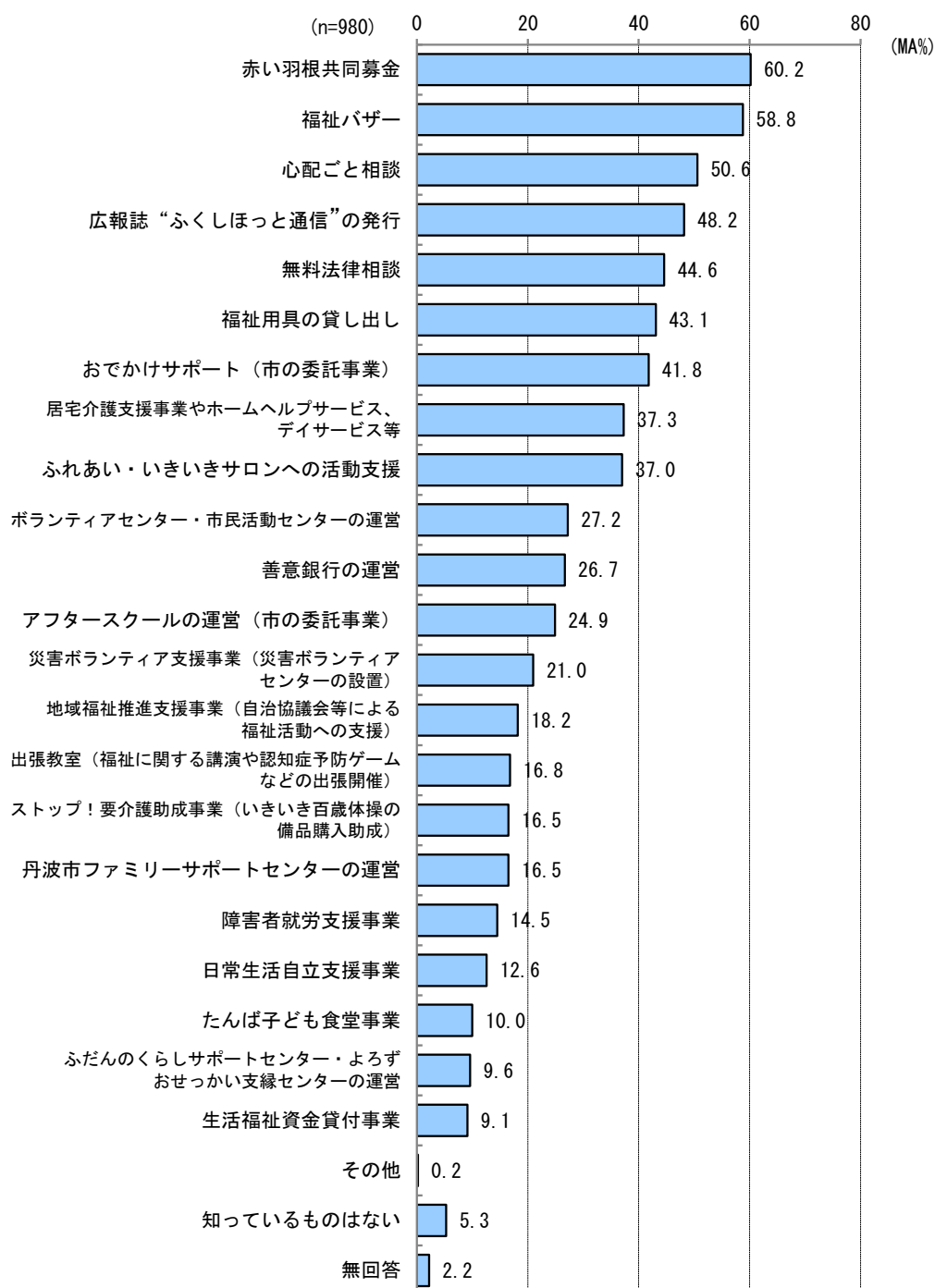
社会福祉協議会の認知度については、「名前を知っているが、役割については知らない」が52.3%で最も多く、次いで「名前を知っており、役割についても知っている」が25.9%、「設置されていることを知らない」は12.4%となっている。(図7-3)

(4) 社会福祉協議会の取組みで知っているもの

【注記】問42で「1. 名前を知っており、役割についても知っている」または「2. 名前を知っているが、役割については知らない」と回答した方にお聞きします。

問42-1 社会福祉協議会の取組みとして知っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

【図7-4 社会福祉協議会の取組みで知っているもの】



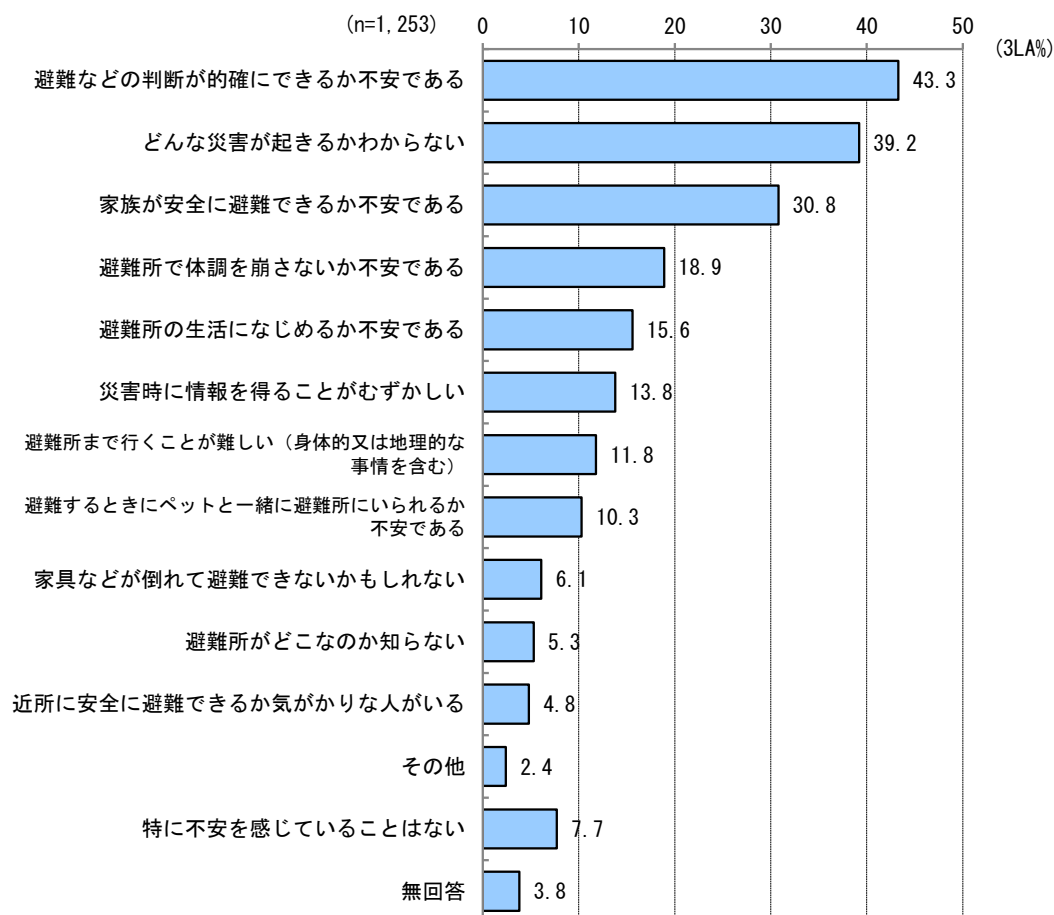
社会福祉協議会を知っていると回答した人に、取組みで知っているものをたずねると、「赤い羽根共同募金」が60.2%で最も多く、次いで「福祉バザー」が58.8%、「心配ごと相談」が50.6%、「広報誌“ふくしほっと通信”の発行」が48.2%、「無料法律相談」が44.6%となっている。(図7-4)

8. 地震や風水害等などの災害対策について

(1) 災害時の避難に関して不安に感じていること

問43 地震や台風などの災害時の避難に関して、特に不安を感じていることは何ですか。
(○は3つまで)

【図8-1 災害時の難に関して不安に感じていること】

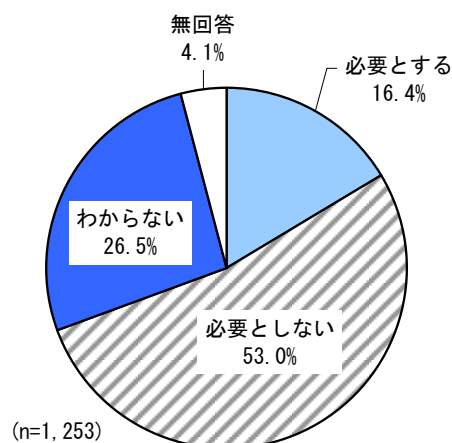


災害時の避難に関して不安に感じていることは、「避難などの判断が的確にできるか不安である」が43.3%で最も多く、次いで「どんな災害が起きるかわからない」が39.2%、「家族が安全に避難できるか不安である」が30.8%となっている。(図8-1)

(2) 災害発生時に誰かの助けが必要か

問44 あなたは、地震などの災害発生時に、避難場所までの移動や情報入手等について、誰かの助けを必要としますか。(○は1つ)

【図8-2 災害発生時に誰かの助けが必要か】



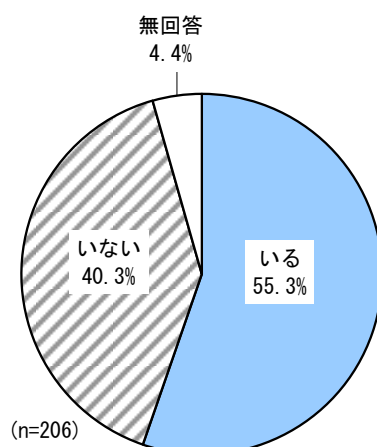
災害発生時に誰かの助けが必要かについて、「必要としない」が53.0%を占めており、一方、「必要とする」は16.4%となっている。(図8-2)

(3) 災害発生時に助けてもらえる人の有無

【注記】問44で「1. 必要とする」と回答した方にお聞きします。

問44-1 あなたは、災害発生時に助けてもらえる人がいますか。(○は1つ)

【図8-3 災害発生時に助けてもらえる人の有無】

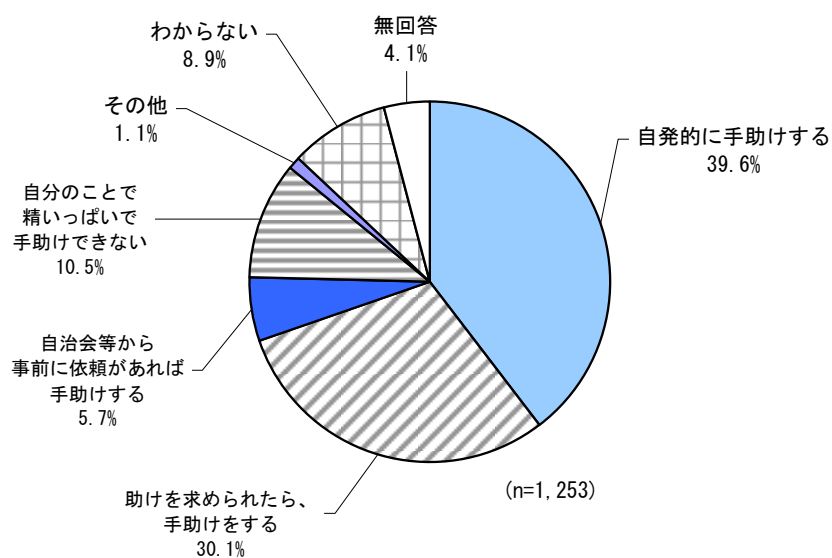


災害発生時に助けが必要と回答した人に、助けてもらえる人がいるかたずねると、「いる」が55.3%、「いない」は40.3%となっている。(図8-3)

(4) 災害発生時に隣近所に自力で避難できない人などがいた場合の対応

問45 あなたは、災害等の緊急事態が発生したときに、隣近所に自力で避難できないひとや安否の不明な人がいたら、どう対応しますか。(○は1つ)

【図8-4 災害発生時に隣近所に自力で避難できない人などがいた場合の対応】

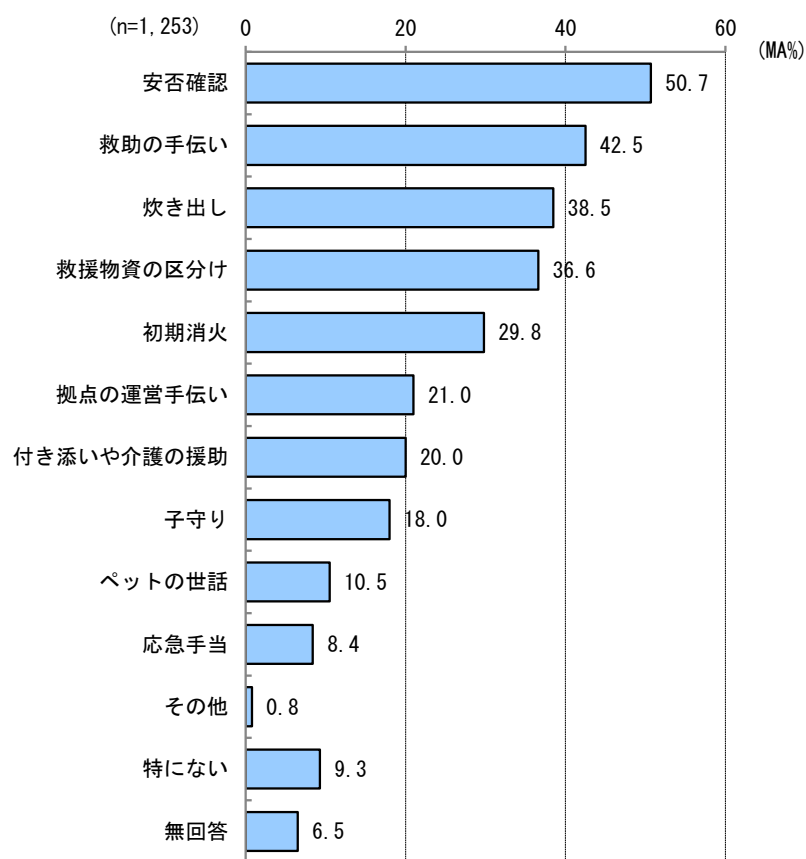


災害発生時に隣近所に自力で避難できない人などがいた場合の対応として、「自発的に手助けする」が39.6%で最も多く、次いで「助けを求められたら、手助けをする」が30.1%、「自分のことで精いっぱい、手助けできない」が10.5%となっている。(図8-4)

（５）災害時に地域のためにできること

問46 あなたは、災害時に地域のためにできることがありますか。（○はいくつでも）

【図8-5 災害時に地域のためにできること】



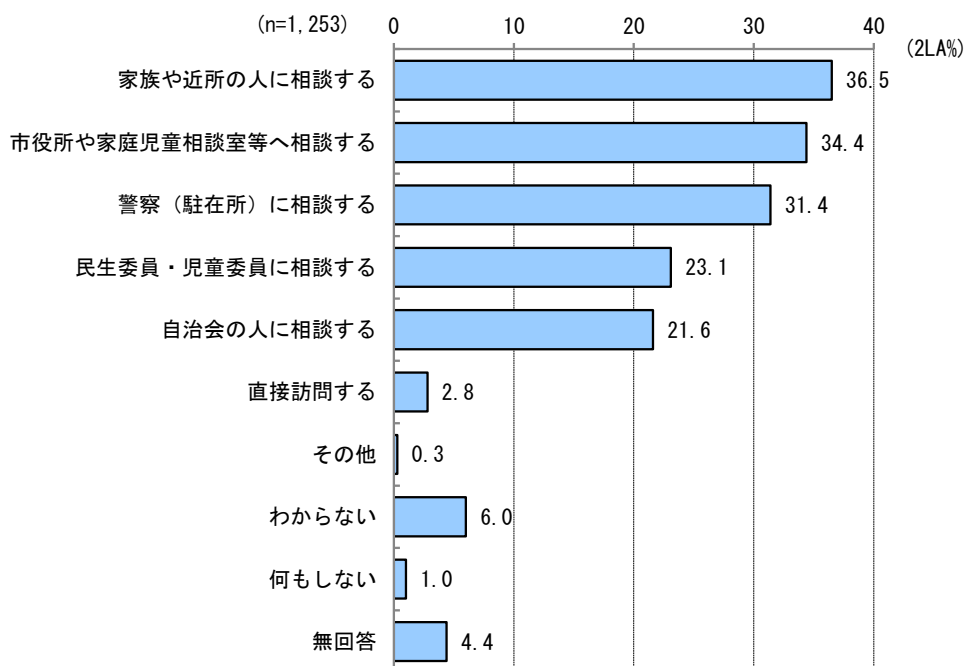
災害時に地域のためにできることについては、「安否確認」が50.7%で最も多く、次いで「救助の手伝い」が42.5%、「炊き出し」が38.5%、「救援物資の区分け」が36.6%となっている。
(図8-5)

9. 人権に関することについて

(1) 周辺で孤独死や虐待を知った場合の最初の対応

問47 もしも、あなたの周辺で孤独死や子ども、高齢者、障がいのある人への虐待などが起こるおそれがあることを知ったら、最初にどのように対応しますか。(○は2つまで)

【図9-1 周辺で孤独死や虐待を知った場合の最初の対応】

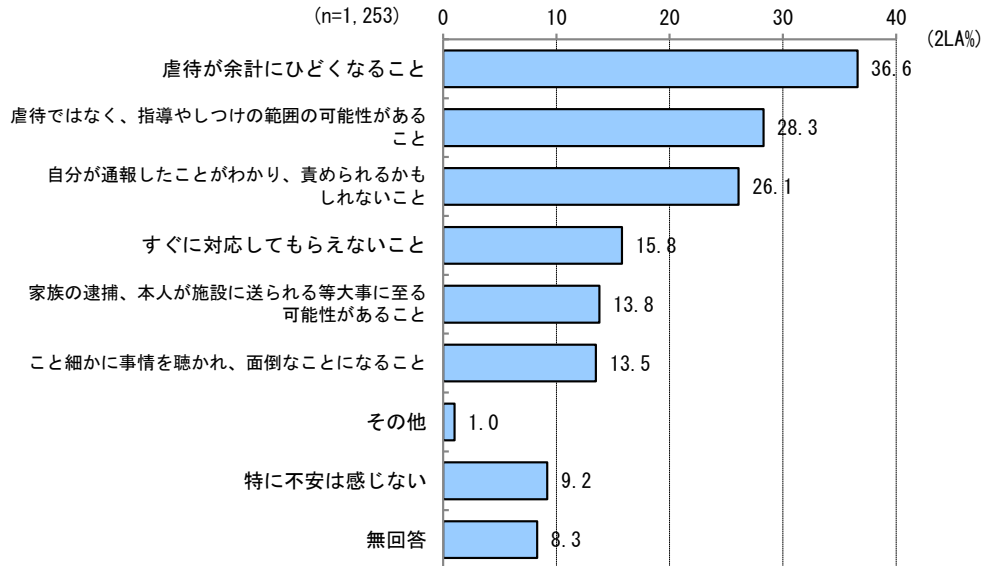


周辺で孤独死や虐待を知った場合の最初の対応について、「家族や近所の人に相談する」が36.5%で最も多く、次いで「市役所や家庭児童相談室等へ相談する」が34.4%、「警察（駐在所）に相談する」が31.4%となっている。また、「民生委員・児童委員に相談する」と「自治会の人に相談する」は各々2割台となっているが、上位3項目に比べるとやや低くなっている。（図9-1）

(2) 虐待が疑われる場面に気づいた対応で不安に感じること

問48 あなたが、虐待が疑われる場面に気づき、対応しなければならない場合、特に不安に感じることは何ですか。(○は2つまで)

【図9-2 虐待が疑われる場面に気づいた対応で不安に感じること】

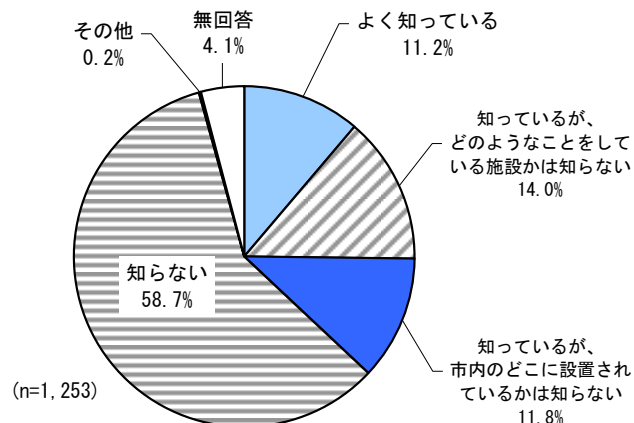


虐待が疑われる場面に気づいた対応で不安に感じることは、「虐待が余計にひどくなること」が36.6%で最も多く、次いで「虐待ではなく、指導やしつけの範囲の可能性があること」が28.3%、「自分が通報したことがわかり、責められるかもしれないこと」が26.1%となっている。(図9-2)

(3) 隣保館の認知度

問49 あなたは「隣保館」という施設を知っていますか。(○は1つ)

【図9-3 隣保館の認知度】



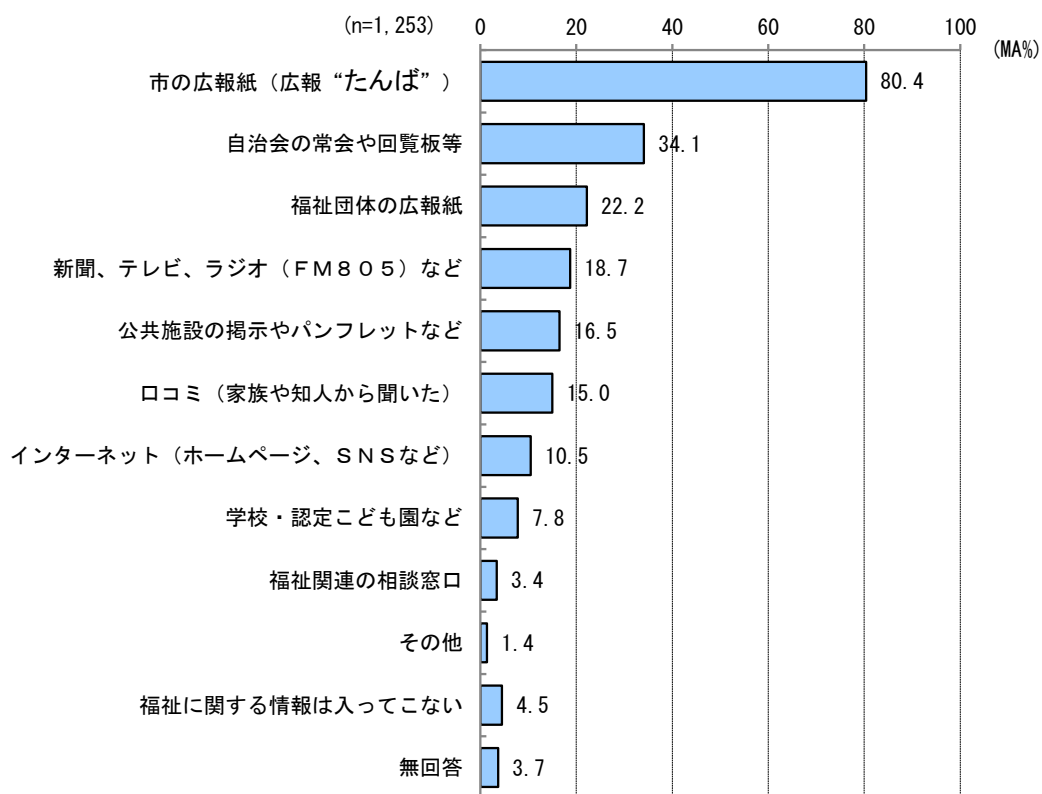
隣保館という施設を知っているかについて、「知らない」が58.7%を占めている。これに次いで、「知っているが、どのようなことをしている施設かは知らない」が14.0%、「知っているが、市内のどこに設置されているかは知らない」が11.8%、「よく知っている」は11.2%となっている。(図9-3)

10. その他のことについて

(1) 市の福祉に関する情報を得る主な手段

問50 あなたが市の福祉に関する情報を得る主な手段はどれですか。(〇はいくつでも)

【図10-1 市の福祉に関する情報を得る主な手段】

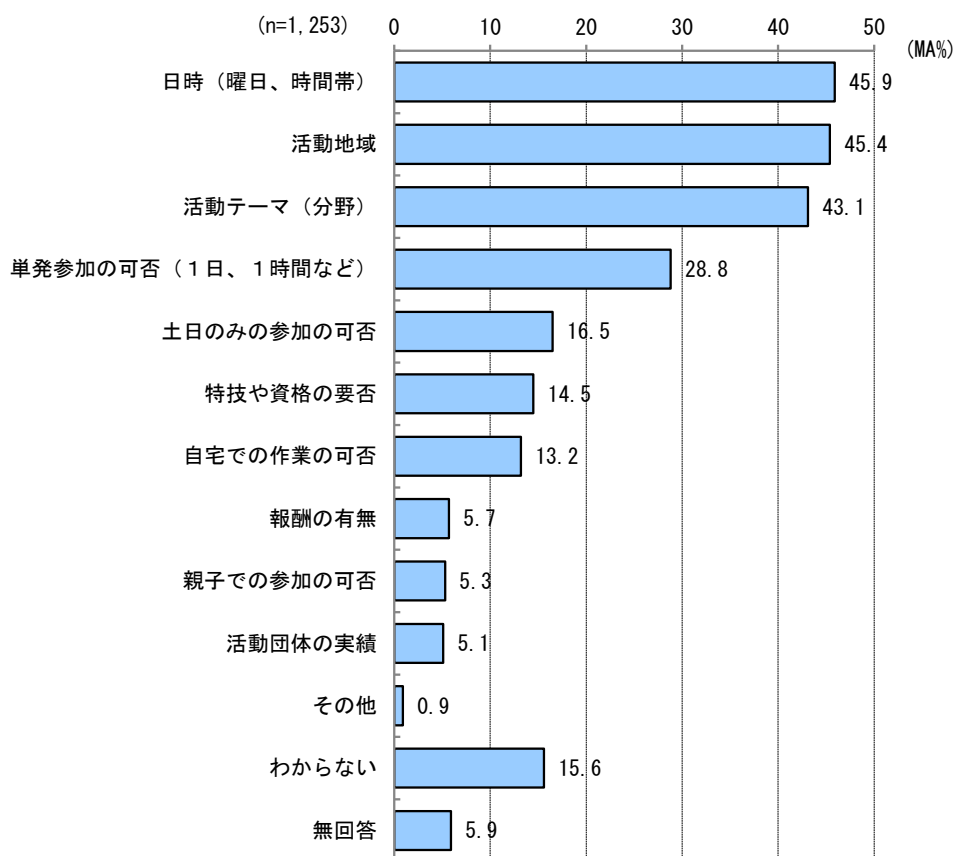


市の福祉に関する情報を得る主な手段については、「市の広報誌（広報“たんば”）」が80.4%で最も多く、次いで「自治会の常会や回覧板等」が34.1%、「福祉団体の広報紙」が22.2%となっている。（図10-1）

（２）地域活動やボランティア活動に参加しやすい情報

問51 もしも、あなたが地域活動やボランティア活動に参加するとしたら、どのような情報がわかると活動に参加しやすいと思いますか。（○はいくつでも）

【図10-2 地域活動やボランティア活動に参加しやすい情報】

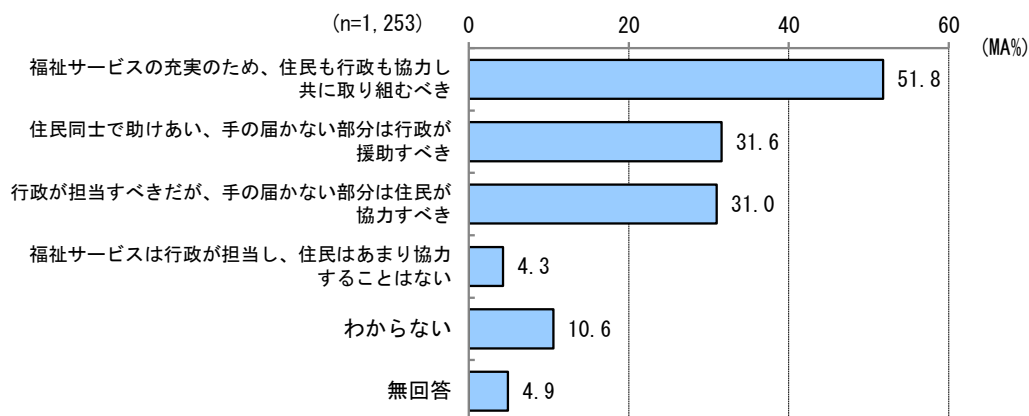


地域活動やボランティア活動の、どのような情報がわかると参加しやすいかについて、「日時（曜日、時間帯）」が45.9%で最も多く、次いで「活動地域」が45.4%、「活動テーマ（分野）」が43.1%となっている。（図10-2）

(3) 地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政のあるべき関係

問52 地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政との関係はどうあるべきだとお考えですか。(〇はいくつでも)

【図10-3 地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政のあるべき関係】

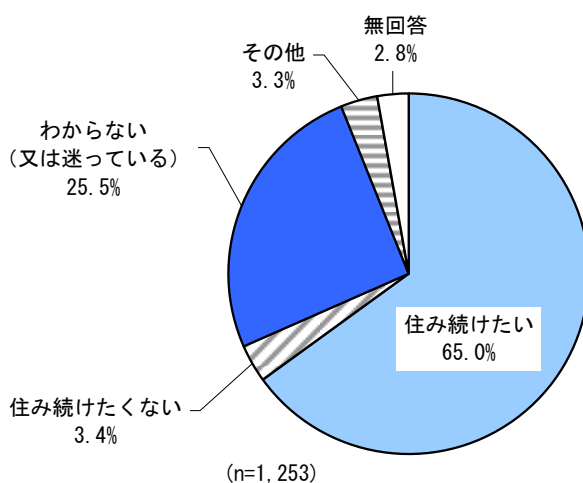


地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政のあるべき関係については、「福祉サービスの充実のため、住民も行政も協力し共に取り組むべき」が51.8%で最も多く、次いで「住民同士で助けあい、手の届かない部分は行政が援助すべき」が31.6%、「行政が担当すべきだが、手の届かない部分は住民が協力すべき」が31.0%となっている。(図10-3)

(4) 丹波市在住の継続意向

問53 あなたは、これからも丹波市に住み続けたいですか。(〇は1つ)

【図10-4 丹波市在住の継続意向】



これからも丹波市に住み続けたいかについて、「住み続けたい」が65.0%を占めている。(図10-4)